

大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

中道遺跡

豊後大野市内遺跡調査報告書



2013

豊後大野市教育委員会

序 文

平成17年3月に町村合併により成立した豊後大野市は、大分県南部の大野川の流れに抱かれた自然豊かな地に所在しています。特に約9万年前の阿蘇火砕流をはじめとした、雄大な地球の活動を表す地形を顕著に見ることができます。地域の新たな魅力として注目されています。

この大自然に育まれた豊後大野の地には、古くから先人たちの活躍を物語る数多くの遺跡が存在し、多様な郷土の歴史や文化をうかがい知ることができます。本書の中道遺跡もそうした遺跡の一つです。

市としても教育行政の一環として、埋蔵文化財をはじめとする歴史遺産の保存、そして活用に取り組んでいるところで、さらには、地域の歴史や文化や伝統を大切にし、次世代へ守り伝える機運をより高めて豊な地域づくりを進めていく所存です。

本書は、そうした郷土の歴史資料の調査記録として刊行いたしました。今後の学術研究や文化財保護活動に役立てられれば幸いです。

最後に、調査にご指導ご協力いただいた大分県教育委員会文化課をはじめ関係機関・土地所有者や耕作者など地元地域の多くの方々に対し心より感謝を申し上げます。

豊後大野市教育委員会
教育長 久保田正治

例　　言

- 1、本書は平成20年度に豊後大野市教育委員会が国庫及び県費の補助を受けて実施した市内遺跡事業の発掘調査報告書である。
- 2、調査は大分県強い農業づくり交付金競争力強化農業生産総合対策事業に伴い実施した。
- 3、発掘調査における調査基準点設置は㈱埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、遺構・遺物の写真撮影は調査員が行った。遺構の実測・トレースは調査員が行い、遺物の実測・トレースは雅企画有限会社に委託した。
- 4、石器の石材については佐藤裕一郎氏(豊後大野市文化財保護審議会委員)より御教示をいただいた。
- 5、発掘作業では地元区民をはじめ、豊後大野市産業経済部農業振興課及び教育委員会生涯学習課職員各位の協力をいただいた。
- 6、本書の執筆は調査担当が行い、編集は諸岡が行った。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめ

第1節　調査にいたる経過	1	第3節　弥生時代の遺構と遺物	14
第2節　遺跡の立地と環境	2	(1)　竪穴遺構	14
第Ⅱ章　調査の成果		(2)　掘立柱建物遺構	31
第1節　調査の概要	4	(3)　溝状遺構	32
第2節　縄文時代の遺構と遺物		(4)　一括採集遺物	33
(1)　竪穴遺構	6	(5)　出土遺物	34
(2)　一括採集遺物	10	第Ⅲ章　まとめ	39

写真図版目次

図版1　中道遺跡遠景・調査区全景	41	図版7　出土遺物（縄文時代石器）	47
図版2　竪穴遺構（1号～5号）	42	図版8　出土遺物（弥生時代土器）	48
図版3　竪穴遺構（5号～12号）	43	図版9　出土遺物（弥生時代土器）	49
図版4　竪穴遺構（12号～19号）	44	図版10　出土遺物（弥生時代土製品・石器）	50
図版5　竪穴遺構（20号・21号）掘立柱・溝	45	図版11　出土遺物（弥生時代石器・鉄器）	51
図版6　出土遺物（縄文時代土器）	46		

挿図目次

第 1 図 中道遺跡位置図 ······	2	第 33 図 7号竪穴遺構実測図 ······	22
第 2 図 中道遺跡周辺地形図 ······	3	第 34 図 7号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	22
第 3 図 中道遺跡調査区配置図 ······	4	第 35 図 9号竪穴遺構実測図 ······	22
第 4 図 中道遺跡調査区 I 遺構配置図 ······	4	第 36 図 9号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	22
第 5 図 中道遺跡調査区 II 遺構配置図 ······	5	第 37 図 10号竪穴遺構実測図 ······	23
第 6 図 中道遺跡調査区 III 遺構配置図 ······	5	第 38 図 10号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	23
第 7 図 8号竪穴遺構実測図 ······	6	第 39 図 11号竪穴遺構実測図 ······	24
第 8 図 8号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	6	第 40 図 11号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	24
第 9 図 15号竪穴遺構実測図 ······	6	第 41 図 12号竪穴遺構実測図 ······	25
第 10 図 15号竪穴遺構出土土器実測図 ······	7	第 42 図 12号竪穴遺構出土遺物実測図 (1) ···	25
第 11 図 15号竪穴出土石器実測図 ······	8	第 43 図 12号竪穴遺構出土遺物実測図 (2) ···	26
第 12 図 16号竪穴遺構実測図 ······	9	第 44 国 13号竪穴遺構実測図 ······	26
第 13 国 16号竪穴出土遺物実測図 ······	9	第 45 国 13号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	26
第 14 国 17号竪穴遺構実測図 ······	10	第 46 国 14号竪穴遺構実測図 ······	27
第 15 国 17号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	10	第 47 国 14号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	27
第 16 国 繩文時代一括採集土器実測図 ······	11	第 48 国 18号竪穴遺構実測図 ······	28
第 17 国 繩文時代一括採集石器実測図 (1) ···	12	第 49 国 18号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	28
第 18 国 繩文時代一括採集石器実測図 (2) ···	13	第 50 国 19号竪穴遺構実測図 ······	28
第 19 国 1号竪穴遺構実測図 ······	15	第 51 国 19号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	29
第 20 国 1号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	15	第 52 国 20号竪穴遺構実測図 ······	30
第 21 国 2号竪穴遺構実測図 ······	16	第 53 国 20号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	30
第 22 国 2号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	16	第 54 国 21号竪穴遺構実測図 ······	31
第 23 国 3号竪穴遺構実測図 ······	17	第 55 国 21号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	31
第 24 国 3号竪穴遺構出土遺物実測図 (1) ···	17	第 56 国 1号掘立柱建物遺構実測図 ······	31
第 25 国 3号竪穴遺構出土遺物実測図 (2) ···	18	第 57 国 2号掘立柱建物遺構実測図 ······	32
第 26 国 4号竪穴遺構実測図 ······	19	第 58 国 3号掘立柱建物遺構実測図 ······	32
第 27 国 4号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	19	第 59 国 3号掘立柱建物遺構出土遺物実測図 ···	32
第 28 国 5号竪穴遺構実測図 ······	20	第 60 国 溝状遺構出土遺物実測図 ······	32
第 29 国 5号竪穴遺構出土遺物実測図 (1) ···	20	第 61 国 溝状遺構実測図 ······	33
第 30 国 5号竪穴遺構出土遺物実測図 (2) ···	21	第 62 国 弥生時代一括採集遺物実測図 ······	33
第 31 国 6号竪穴遺構実測図 ······	21	第 63 国 土器品加工品実測図 ······	34
第 32 国 6号竪穴遺構出土遺物実測図 ······	21		

表目次

第 1 表 弥生時代竪穴遺構分類表 ······	14	第 5 表 中道遺跡出土遺物觀察表 (弥生時代石器)	38
第 2 表 弥生時代竪穴遺構一覧表 ······	14	第 6 表 中道遺跡出土遺物觀察表 (鉄器) ······	38
第 3 表 中道遺跡出土遺物觀察表 (弥生土器 1)	36	第 7 表 中道遺跡出土遺物觀察表 (土製品) ···	38
第 4 表 中道遺跡出土遺物觀察表 (弥生土器 2)	37		

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査にいたる経過

豊後大野市は大分県南部の大野川中流域に所在する。第一次産業である農業中心の経済が優位であり、広い平野は少なく、火山性台地の発達した地理環境のもと、特に畑作による様々な作物が地域の特産として知られている。そのうちの一つである葉煙草栽培も盛んで、県下でも有数の生産地帯であるが、文化財保護上の問題となっている。それは葉煙草栽培には圃場の土壌改良が必要で、上層の黒土と下層の赤土を重機によつて入れ替えてしまう「天地返し」工事が頻繁に行われることによる。通常の農業基盤整備とは違い盛土保存が困難であるため、新たに作付けする圃場には事前に埋蔵文化財の保存に向けた対応として、今まで発掘調査による記録が行われてきた。

平成20年8月末に大分県教委より、競争力強化農業生産総合対策事業が豊後大野市内で年度内実施との計画がある旨を知らされた。この事業は葉煙草生産の向上のため県営で天地返し工事を実施するもので、すべて台地地形上の30箇所で面積は約91,000m²にも上り、着手が決定して初めて埋蔵文化財に関する照会がなされたものであった。事業が計画された前年度段階で分布調査を行ったうえ、試掘等の対応協議を行うのが従来の対応であったが、大分県農林水産部の事業担当課では、当該地域は圃場整備工事が過去に実施されているという理由で埋蔵文化財の対応済みとの誤解があり、その結果事前照会が遅れ、工事着手予定一ヶ月前になって分布調査を実施する運びとなった。圃場整備工事については昭和40～50年代より市内至る所で実施され、それに伴って多くの遺跡が調査されているが、掘削深度が浅い場合や工法変更により盛土保存の措置の場合など、未調査のまま保存されて工事実施された遺跡も数多く存在するのが実態であり、新たな開発に対しては事前対応を必要とすることは言うまでもない。しかし上記により情報連絡が遅れ、円滑な対応が損なわれる事が懸念される事態になった。

9月に県教委による分布調査が実施され、大野町、千歳町、三重町にわたる30箇所の工事予定箇所を巡回し説明を受けた。25箇所が周知遺跡範囲内であったが、多くは耕作等により遺構検出の地山層が表面に露出するなど遺跡の残存は見込めないと判断されるものであるため、遺跡の存在する可能性の高い4箇所を試掘調査対象に、それ以外は工事立会の対応と判断された。4箇所のうち3箇所は大野町後田の中道・萩田尾遺跡群の範囲内で、もう1箇所は三重町上田原の上田原遺跡である。農業基盤整備に伴うため調査は豊後大野市教育委員会が市内遺跡事業として対応することとし、10月7日より中道・萩田尾遺跡群、10月21日に上田原遺跡で試掘調査を実施した。

上田原遺跡では特に遺構や遺物は検出できなかったが、中道・萩田尾遺跡群の3箇所ではすべてに遺構を検出する結果となり、発掘調査を要することとなった。開発側の県農林水産部はこれまでの事前協議の遅れを認め、県葉煙草生産組合、市農政部、県教委、市教委の関係者と遺跡の取り扱いについて直ちに協議を行つた。その結果、天地返し工事は通常翌年の作付けに間に合わせるため年明けに延期することとなり、従つて年末には調査を終了させる必要があること、そのため発掘調査は速やかに実施するということとなり、試掘調査からそのまま発掘調査へと移行することとなった。

本調査は10月8日より開始して調査区域の表土剥ぎの結果、予想以上に遺構が分布することが判明した。関係者で再度協議を行い、調査費用を国・県補助の計画変更で対応することや、開発側の葉煙草耕作者が1年限り代替地での耕作に合意したことから、天地返し工事はさらに年度末に延期が可能となり、11月4日で一旦中断することとなった。計画変更による交付決定通知を受けた後、平成21年2月1日より再開して2月28日まで調査は行われ、中断期間を挟んで実質145日間での期間で終了した。期間中の11月16日に地元区民に対して現地説明会を開催し、16名の来訪者があった。

なお、調査の体制は下記のとおりである。

平成 20 年度（発掘調査）

- 調査指導 田中裕介（大分県教育庁文化課主幹） 吉田寛（同副主幹）
調査主体 首藤正史（豊後大野市教育委員会教育長） 田嶋誠一（同教育次長）
調査担当 小野繁幸（生涯学習課長）
高野弘之（生涯学習課文化財班長） 諸岡郁 豊田徹士（同文化財班）

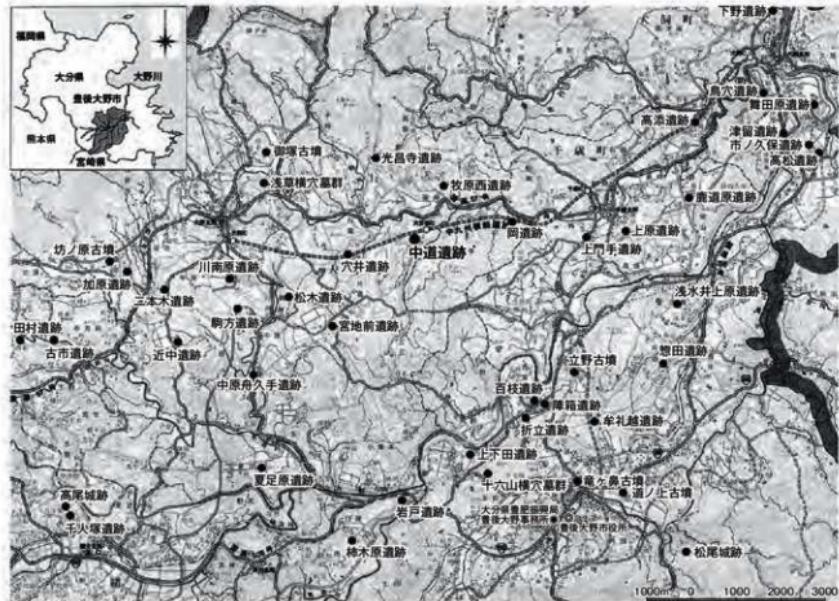
平成 24 年度（報告書作成）

- 調査主体 久保田正治（豊後大野市教育委員会教育長）
調査事務 渡邊久洋（社会教育課長）
原嶋宏司（社会教育課文化財係長）高野弘之 諸岡郁 豊田徹士（同文化財係）

第2節 遺跡の立地と環境

大分県豊後大野市は、平成 17 年 3 月に大野郡 7 町村（三重町・清川村・緒方町・朝地町・大野町・千歳村・犬飼町）が合併して成立し、その市域は大野川中流域の大部分に相当する。大野川は祖母傾山系や阿蘇外輪山、久住連山群に源を発し、県下最大の流域面積を誇る。その中流域には阿蘇火砕流による台地が顕著に発達し、先史時代より続く生活基盤となっており、様々な遺跡が集中する地域として知られている。

中道遺跡はその大野町東部より東流して大野川に注ぐ支流の茜川右岸の台地上に所在しており、大野町域で数多くみられる台地群の一つでもある。標高は約 210 m で、周囲は茜川およびその支流による深い谷に区



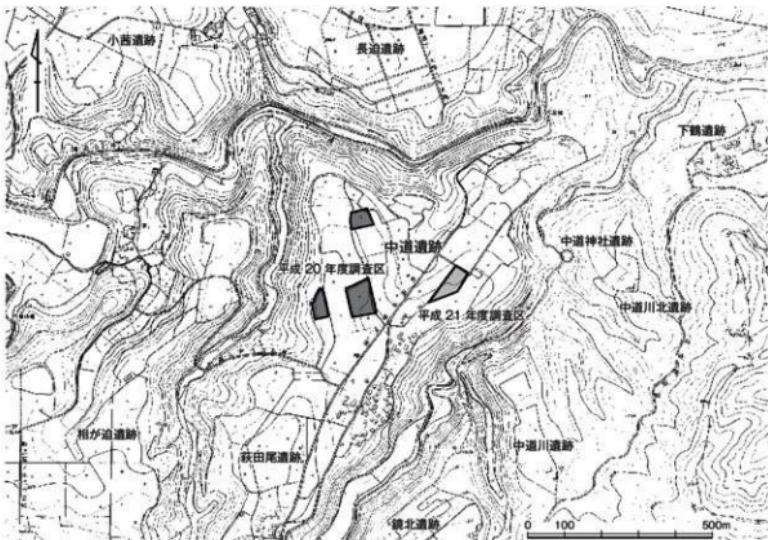
第1図 中道遺跡位置図

切られて独立状で、南北2kmにもおよぶ広大な台地地形となっている。このような火山性台地地形の発達は大野・朝地・千歳・犬飼の各町で顕著に見られ、また、台地の間に流れる大野川本流及び支流による沖積平野などの地形なども随所に見られ、これらには数多くの遺跡が所在している。

市内の主要遺跡として、旧石器時代の遺跡は国指定史跡の岩戸遺跡をはじめ、市ノ久保遺跡・津留遺跡・百枝遺跡・駒方遺跡群など著名な遺跡が多く知られている。縄文時代も同様で、早期の田村遺跡・鳥穴遺跡、前期の千人塚遺跡、後期の夏足原遺跡・川南原遺跡群・岡遺跡・惣田遺跡、晩期の大石遺跡・宮地前遺跡など、良好な構造や遺物が確認されている。

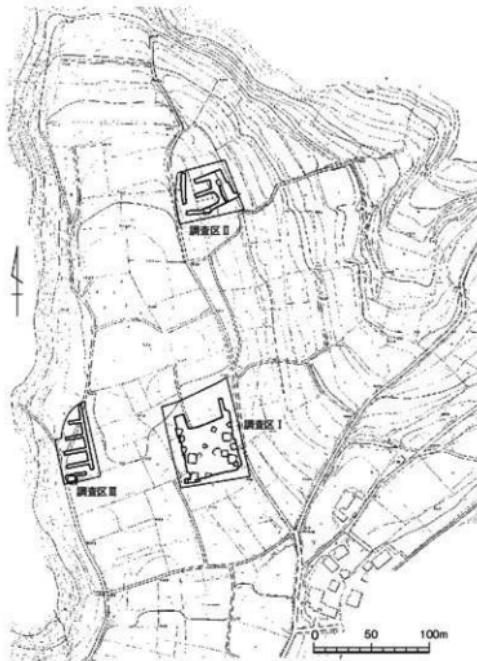
弥生時代では前期は希薄であるが、中期後半以後遺跡数が増加し始め、近中遺跡や岡遺跡などで住居跡が見つかっている。やがて後期に入ると台地上を中心に爆発的に増加し、中には大規模集落として発達する。200基を超える堅穴住居跡や掘立柱建物群が検出された鹿道原遺跡をはじめ、高松遺跡・高添遺跡・二本木遺跡・陣箱遺跡など多数知られている。大野町を中心とした大野原地域と千歳町・犬飼町を中心とした白鹿山周辺地域で異なる土器の特徴が指摘されており、大野川中流域の東西でそれぞれ文化圏が存在しているものと推定されている。県下でも代表的な遺跡集中地域であるが、古墳時代以後になると集落遺跡は減少し、生活の痕跡は台地上から谷底平野への変化がみられる。しかし墳墓の遺跡は多く、8基の前方後円墳をはじめ、平井側流域周辺に円墳群、諸方川流域等に横穴墓群など数多くの墳墓遺跡の分布が知られている。

歴史時代以後について、市域は豊後國大野郡の大部分に含まれる。条里跡と推定される地割が緒方平野で確認され、磨崖仏や石塔類などの石造物が膨大に所在する。遺跡調査例としては古代の遺跡は古市遺跡・加原遺跡等で調査例は多くはないが、中世になると建物遺構が惣田遺跡や高添遺跡で、墳墓群が千人塚遺跡で検出されている。また、松尾城や高尾城など山城をはじめ、上門出遺跡や一万田氏館跡など多くの中世城館跡が確認されている。近世は臼杵藩と岡藩の領域に属し、両藩の様々な関連施設や、街道や河川港などの交通の遺跡等が所在し、一部は現在でも人々の生活や社会と結びついている。



第2図 中道遺跡周辺地形

第Ⅱ章 調査の成果



第3図 中道遺跡調査区配置図

調査区Iは後田字義丁場858・859番地で、調査面積は2,304m²である。最も多くの遺構・遺物が検出されており、今回の中心となる調査区である。地形はわずかに南方向へ傾斜するほど平坦上で、試掘トレンチの状況から遺構が多く密集した南側を主体に表土除去を行った。

調査区Ⅱは調査区Ⅰの北側160mの字下ノ久保955番地で、調査面積は647m²である。わずかに標高が高く、東側に傾斜している。調査区Ⅲは調査区Ⅰの西側80mの台地端に位置しており、字義丁場852番地で、調査面積は416m²である。調査区Ⅱ・Ⅲとともに遺構検出した部分のみ試掘トレンチを拡充して表土を除去した。

第1節 調査の概要

中道遺跡は大野町東部の南北に広がる広大な台地上に所在している。旧地形図では若干起伏のある台地上のやや小高い位置で、標高は約210m、周囲は西川及びその支流による深い谷に区切られており、比高差は約50mである。以前より数多くの土器等が採集されていることから、弥生時代の集落遺跡が推定され、「中道・萩田尾遺跡群」として周知されている。その範囲は立地する台地全体が周知遺跡となっているが、今回の調査区は台地北側の中道地区のみで萩田尾地区は含まないことから、中道遺跡の遺跡名で実施した。調査区は開発区域に合わせて3箇所に分かれているため、調査開始した順にI～IIIの調査区番号を付している。

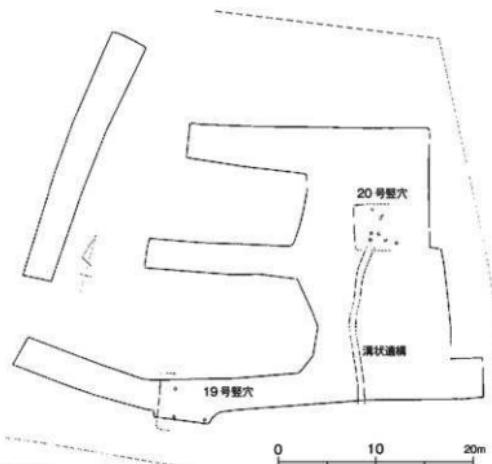


第4図 中道遺跡調査区Ⅰ遺構配置図

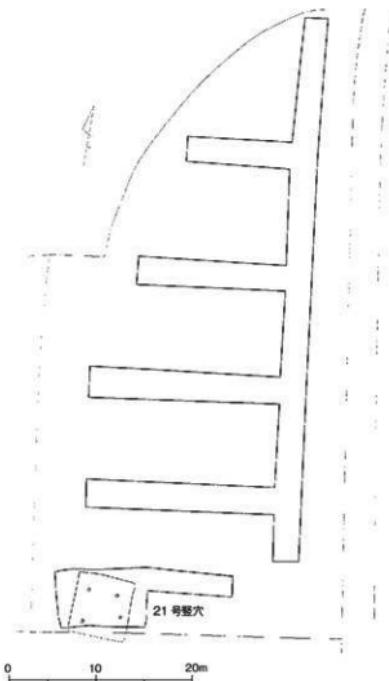
各調査区で搅乱が多く、特に調査区Ⅰの北側及び調査区Ⅱ・Ⅲの全体で農業機械による筋状に多数平行して深く掘削された痕跡が著しく、縞状に残る地山層より遺構を検出する作業を行った。

検出した遺構のうち、主体となる竪穴遺構は21基を確認し、検出した順番に番号を付した。1号から18号までの18基は調査区Ⅰ、19・20号の2基は調査区Ⅱ、21号は調査区Ⅲで検出している。時期は4基が縄文時代のものでそれ以外は弥生時代のものである。竪穴遺構の周囲の柱穴群について、調査区Ⅱ・Ⅲでは搅乱のためか検出はできず、調査区Ⅰのみの検出で、掘立柱建物の配列を3基礎認できた。その他、溝状遺構は調査区Ⅱで検出した。

なお、平成21年度に字下モ1112番地でも天地返し計画に伴い、試掘調査を実施した。調査区Ⅰの西側200mの位置でもあり、20年度調査と同様の遺跡の広がりが予想されたが、遺構・遺物は特に確認できなかつた。



第5図 中道遺跡調査区Ⅱ遺構配置図



第6図 中道遺跡調査区Ⅲ遺構配置図

第2節 繩文時代の遺構と遺物

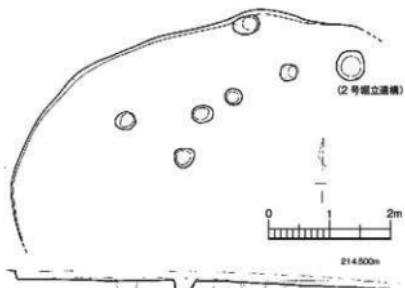
検出した竪穴遺構 21 基のうち 4 基が繩文時代の遺構で、調査区 I より検出している。土器や石器等の遺物はこれらの遺構のほか弥生時代の遺構覆土や擾乱土層からも出土している。時期は土器の大半が後期後半の三万田式土器と推定されるものである。

(1) 竪穴遺構

8号竪穴遺構

調査区 I の中央付近に位置し、2号掘立建物遺構に切られており、弧を描くラインを検出した。円形または楕円形状の平面形と考えられるものの、一部のみしか残存していないため形態は不明である。柱穴も 6 基程が検出している。

出土遺物はわずかな土器片や第 8 図の安山岩製打製石斧の破片のみであるが、土器の特徴から繩文時代の遺構と推定される。



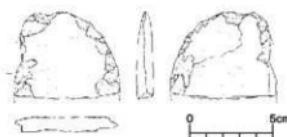
第7図 8号竪穴遺構実測図

15号竪穴遺構

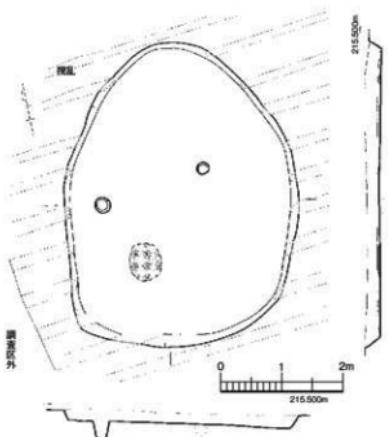
調査区 I 西端の 16 号竪穴の南隣に所在し、検出面の擾乱が著しいものの、平面観は長径 5.2 m、短径 4 m の楕円状を呈する。床面はローム層土が混入してやや締まっている。柱穴は 2 箇所のみで、また床面中央やや東西より焼土が確認できた。

出土遺物について、第 10 図 1 ~ 18 は器面を丁寧に研磨された深鉢で、1 ~ 10 は口縁部内面に沈線がある。1 ~ 3・13 は波状口縁で、それ以外は水平口縁である。11 は外面に条痕を残すやや粗いヘラ磨き調整で、18 は頸部屈曲部外面に沈線が巡っている。19 は浅鉢の口縁と思われる。20 ~ 24 は底部である。25 は土偶の脚部と推定される土製品で、足首部分をやや窄めた円柱状の形態で、足裏は $3.5\text{cm} \times 2.5\text{cm}$ 程の楕円形の平坦面を呈している。現存長は 3.25 cm を測り、表面は丁寧な磨きにより仕上げられている。胴部及び、爪先あるいは踵を欠損している。

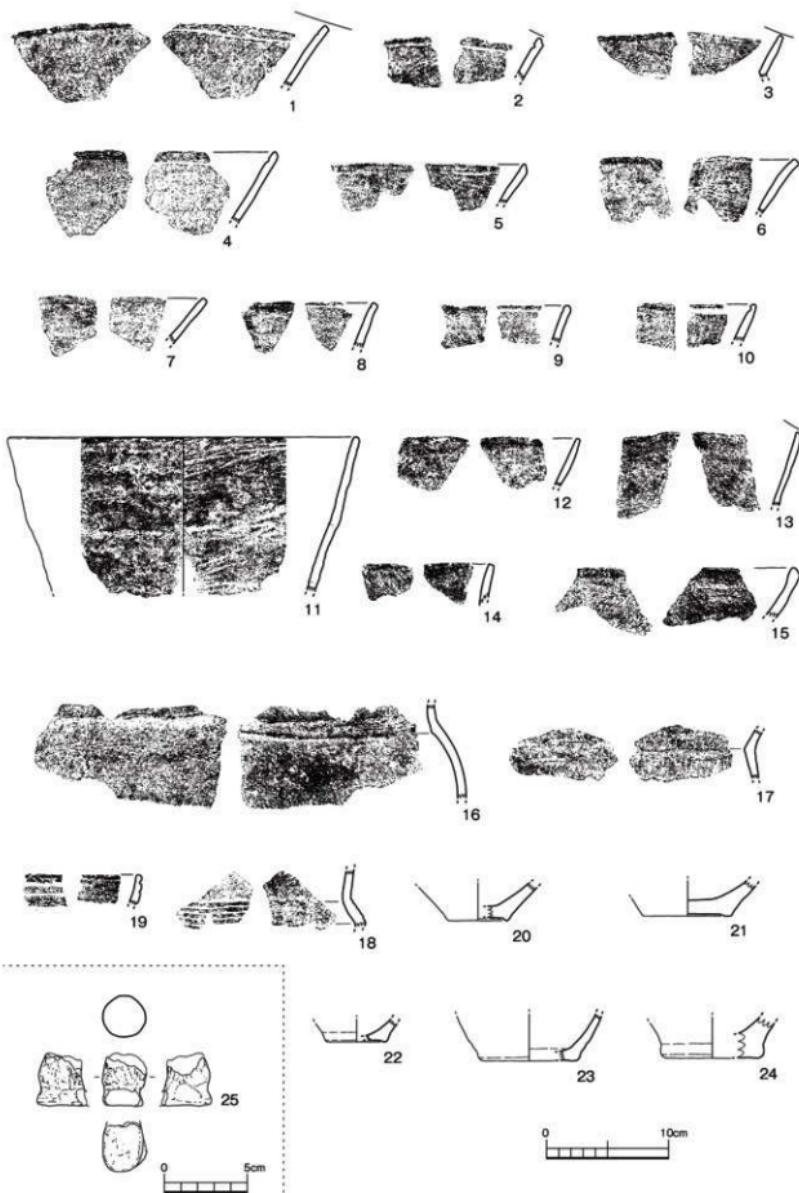
石器は第 11 図で、1 ~ 11 は扁平打製石斧で、8 には使用痕と考えられる磨り痕及び被熱痕がある。2 は緑色片岩、11 は凝灰岩で、それ以外は安山岩製である。12 は石皿で、大型の安山岩礫の上面に研磨痕が確認できる。



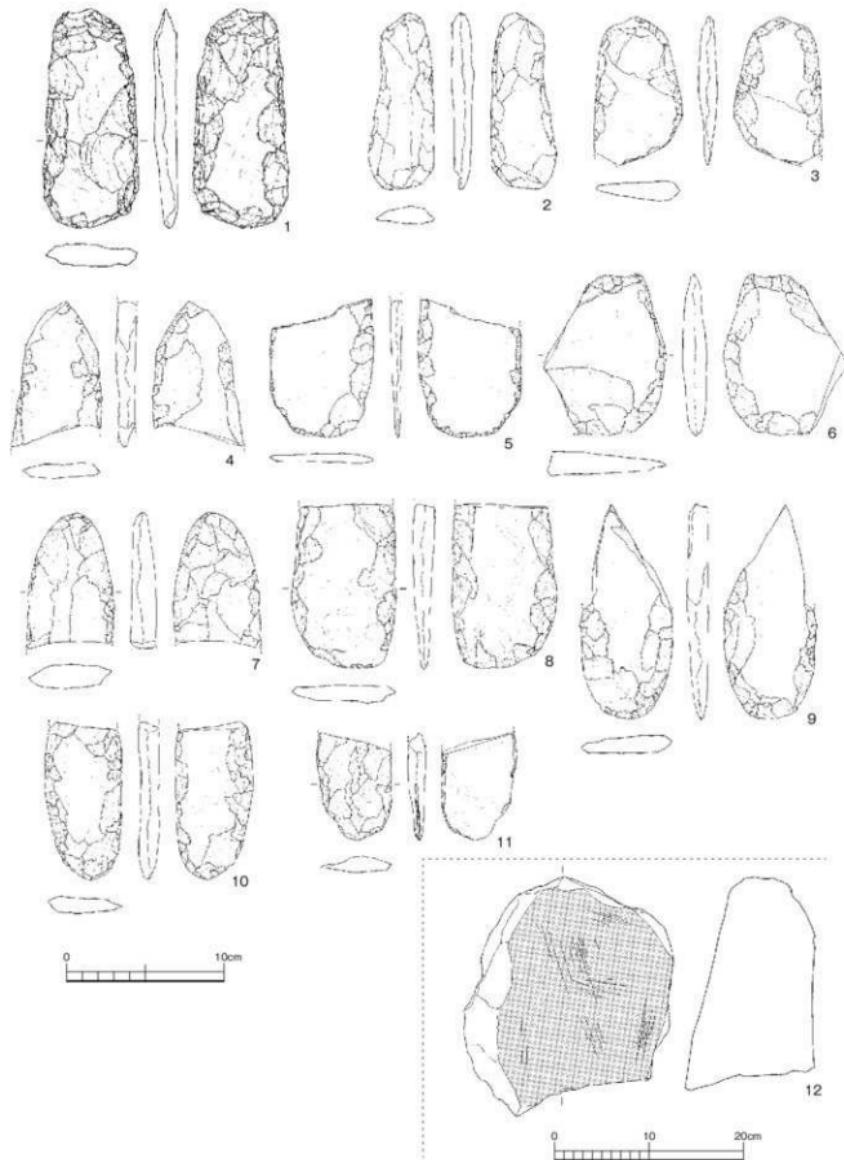
第8図 8号竪穴遺構出土遺物実測図



第9図 15号竪穴遺構実測図



第 10 図 15 号竪穴出土土器実測図

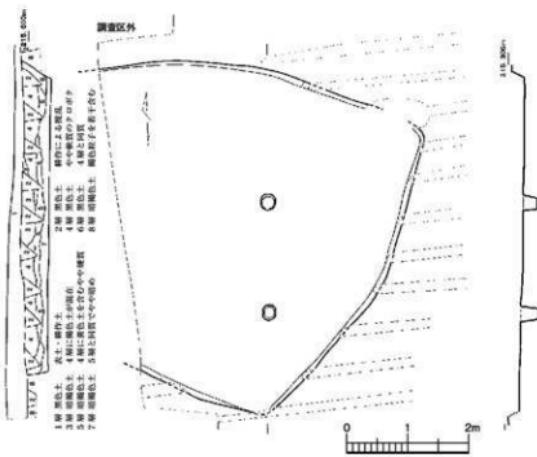


第 11 図 15 号竪穴出土石器実測図

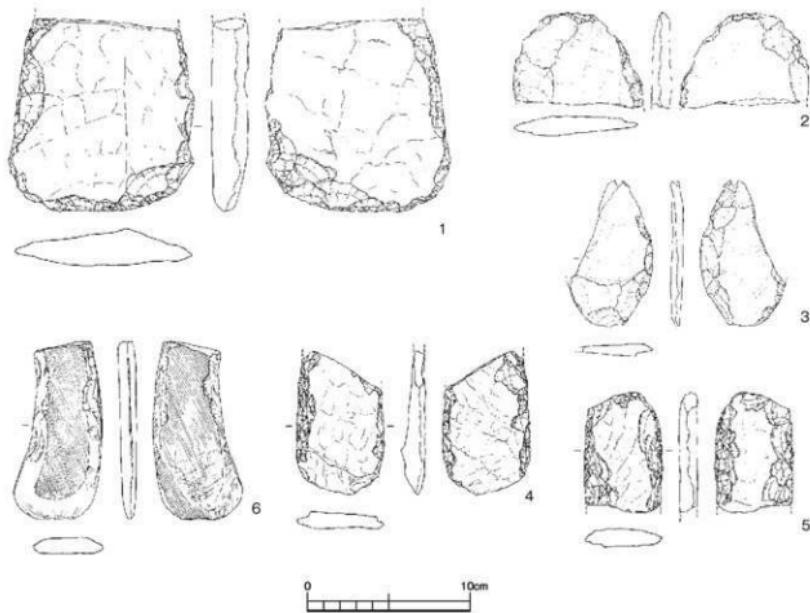
16号竪穴遺構

調査区Ⅰ西端の15号竪穴の北隣に所在し、検出面の攪乱が著しいものの、平面觀は略方形状を呈する。西端は調査区外となるが南北長は5.8mを計る。床面はローム層土が混入してやや締まっている。柱穴状の掘り込みは2箇所検出している。

出土遺物は第13図の石器で、土器はわずかな破片しか出土していない。1～5は扁平打製石斧ですべて安山岩製である。6は緑色片岩製の磨製石斧である。



第12図 16号竪穴遺構実測図

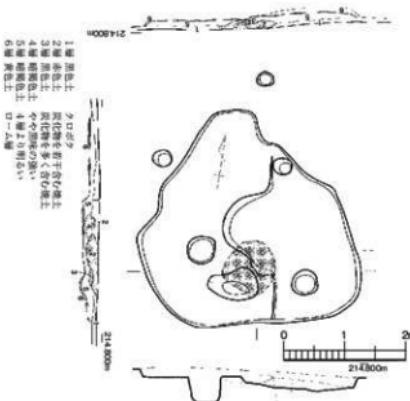


第13図 16号竪穴出土遺物実測図

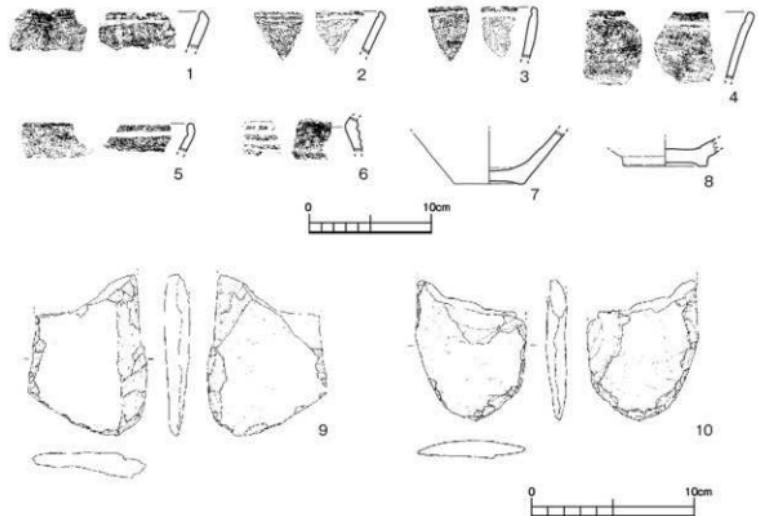
17号竪穴遺構

調査区Ⅰ中央付近で検出し、南北3.8m東西3.8m程の不定形を呈する。床面の中央付近で段差があり、東側が一段下がって検出している。柱穴状の掘込みが3箇所のほか、土坑状の窪みがある。また、覆土中に焼土層があり、一部硬く焼き縮まっているため、ある程度埋没した時点に生じた焼土と思われる。

出土遺物は第15図で、1～5は口縁内側に一条の沈線が入るもので、6は胸部屈曲部に磨消繩文があり、西平式土器の深鉢とも思われる。7・8は底部である。石器は9・10の扁平打製石斧で、9は安山岩製で使用痕と考えられる磨り痕があり、10は凝灰岩製である。



第14図 17号竪穴遺構実測図



第15図 17号竪穴出土遺物実測図

(2) 一括採集遺物

縄文時代の遺物は、前記の竪穴遺構以外にも表土層中や搅乱層中、弥生時代の遺構覆土などからも出土している。耕作や圃場整備等により包含層としては残存してはいない。これらについて採集遺物と合わせて図示する。

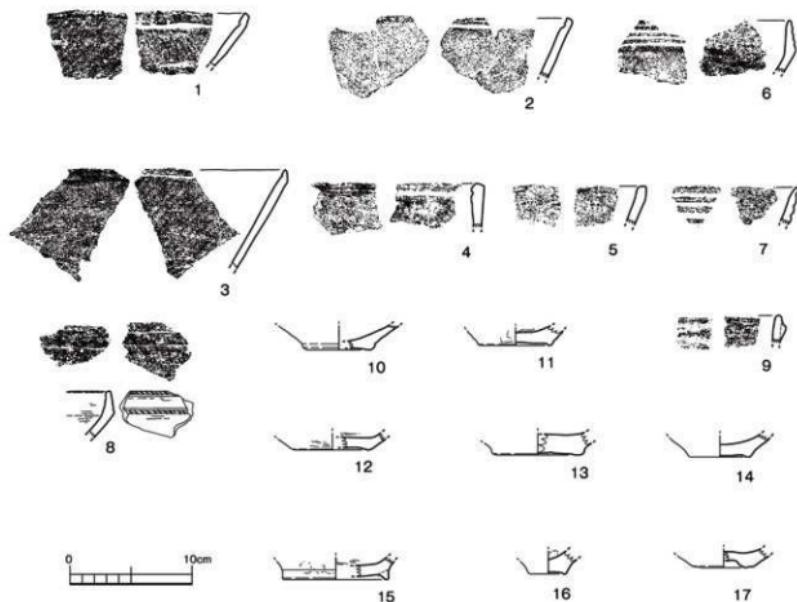
土器（第16図）

1～7は丁寧に研磨された深鉢で、1～4には口縁内面に一条の沈線がある。6・7は口縁外面に沈線を巡らしており、8は浅鉢で外面に沈線と羽状文がある。いずれも繩文時代後期の三万田式土器に相当する。9は口縁外面に突帯があり、繩文時代晚期の深鉢と思われる。10～17は底部である。

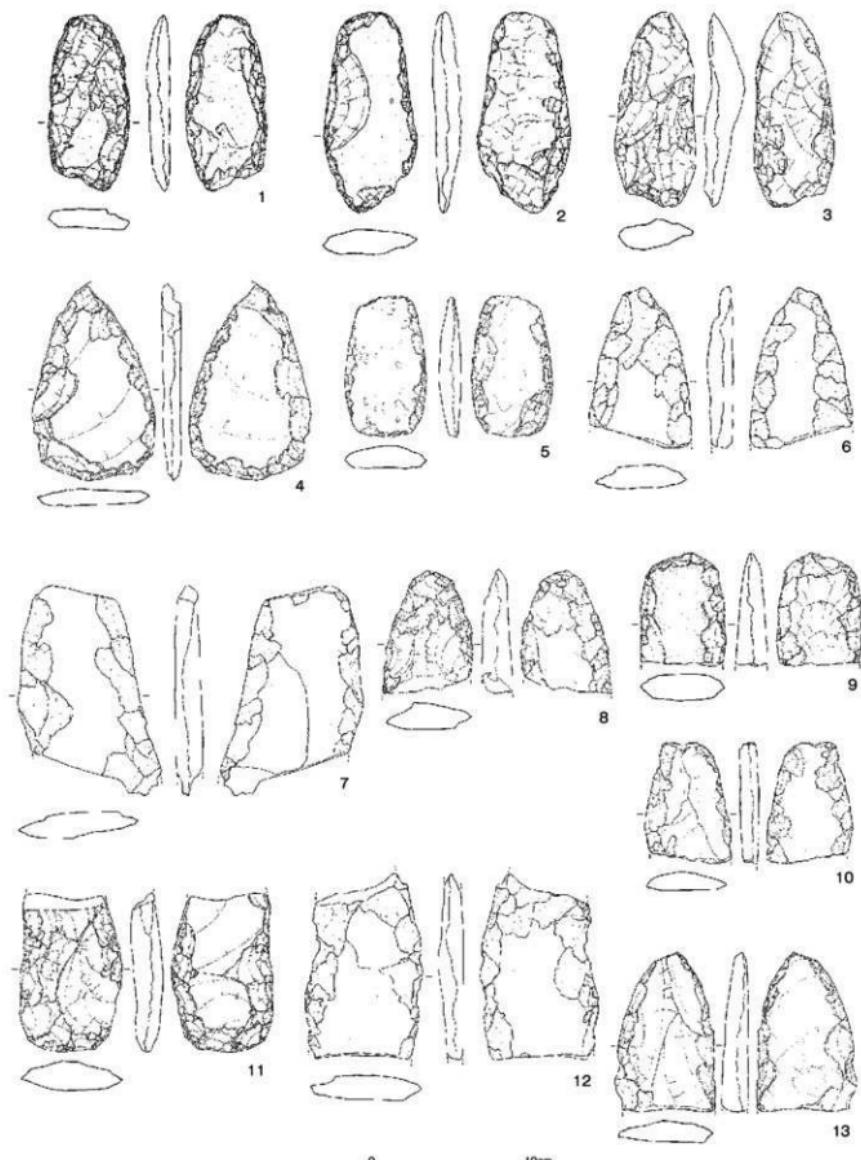
石器（第17・18図）

石器の多くは扁平打製石斧であり、他には磨製石斧、石匙が出土している。打製石斧は図示したもの以外に破片と考えられるものも多数存在し、繩文時代の堅穴遺構である15号堅穴からも数多く出土するなど重要な石器とみられる。しかし弥生時代の堅穴遺構からも出土があり、弥生時代まで継続して使用された石器の可能性もあると思われるが、材質・形態から時期差は判断できず、多くが繩文土器とともに弥生時代の遺構没時の流れ込みとみられるため、ここに掲載する。

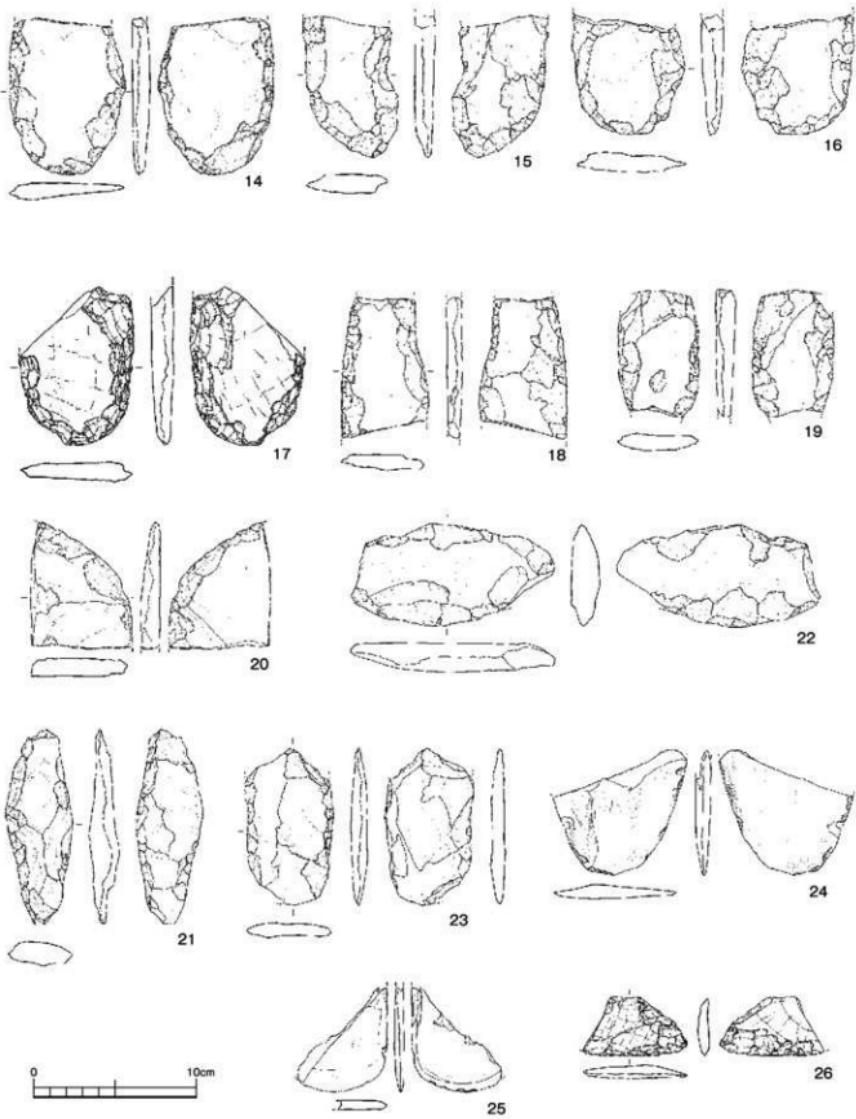
1～20は扁平打製石斧で、3・5は凝灰岩製でそれ以外はすべて安山岩製である。14には磨り痕、16には被熱痕がみられ、使用痕と考えられる。21は厚みのある緑色片岩製のもので石ノミ状石器とも思われる。22は横長剥片縁辺を加工しており、石包丁状の横刃形石器と思われるもので、他に打製石斧のいくつかはこれに含まれるかもしれない。23～25は磨製石斧で、23・25は片岩製、24は安山岩製で顕著な研磨がみられる。特に25は刃の研磨が入念で弥生時代の可能性もある。26は片岩製の石匙の一部とも考えられる。



第16図 繩文時代一括採集土器実測図



第17図 桶文時代一括採集石器実測図（1）



第18図 縄文時代一括採集石器実測図(2)

第3節 弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴遺構

弥生時代の竪穴遺構はすべての調査区で計17基確認し、1号～18号の14基が調査区Ⅰ、19号・20号が調査区Ⅱ、21号が調査区Ⅲより検出している。時期は14号竪穴遺構が中期である以外は後期のものと思われる。

竪穴遺構は中期の14号と一部の柱穴のみ検出の13号を除く15基について、これまで調査の行われた大野川流域の各遺跡で見つかった多くの竪穴遺構と共に構成される。特に主柱穴の配置については、これまで多くの調査例から分類が行われており、本書も鹿道原遺跡などの報告例に沿って類型は第1表のとおりとする。ただし、13号と18号竪穴は柱穴のみの検出による推定である。

第1表 弥生時代竪穴遺構分類表

類型	主柱穴配置	説明	竪穴番号
B類	○	1本柱	1号?
C類	○○	2本柱 中央付近に2本配置	6号 7号 20号?
D類	○○ ○○	4本柱 四隅に1本づつ配置	3号 4号 9号? 18号? 19号 21号?
G類	○○ ○○ ○○	6本柱 壁に沿って3本+3本配置	10号?
K類	○○○ ○○○	8本柱 壁に沿って3本+2本+3本配置	11号 12号
M類	○○ ○○	8本柱 四隅に2本配置	5号
P類	○○○ ○○○	9本柱 「田」字状に3本+3本+3本配置	2号

第2表 弥生時代竪穴遺構一覧表

竪穴番号	規模 (約cm) (南北幅×東西幅×深さ)	面積 (m ²)	主軸方向 N	柱穴配置 類型	柱本数	地焼炉 (南北×東西)	炭化物炉 (南北×東西)	切合関係	出土遺物 時期	備考
1号	360×370×50	13.3	N - 13° -E	B	1	120×110	40×20	2号竪穴	後期終末	
2号	740×800×60	59.2	N - 13° -E	P	9	40×40	60×180	1号竪穴	後期後葉	主柱抜取り痕
3号	540×540×50	29.1	N - 6° -E	D	4		120×150	2号掘立柱建物	後期終末	
4号	530×?×40	? N - 6° -W D?	4?	?	?		100×100		後期後葉	
5号	760×700×25	53.2	N - 10° -E	M	8	40×40	120×120	1号掘立柱建物	後期終末	
6号	370×390×20	14.4	N - 54° -E	C	2		120×110		後期後葉?	
7号	370×360×20	13.3	N - 22° -E	C	2				後期後葉?	
9号	? × 540 × 15	?	N - 14° -E	D?	4?	?	?		後期終末	
10号	? × 630 × 20	?	N - 4° -E	D?	4?	? × 40	?	11号竪穴	後期終末	
11号	640×600×20	38.4	N - 13° -E	K	8		80×130	10号竪穴	後期終末	
12号	720×840×55	60.4	N - 10° -E	K	8	60×60	100×120	18号竪穴?	古墳初頭	不定形土坑
13号	? × ? × ?	?	N - 14° -E	?	?	?	?		後期前葉?	
14号	? × ? × ?	?	?	?	?	?	?		中期後半	
18号	? × ? × ?	?	N - 10° -E	D?	4?	?	?	3号掘立柱建物・12号竪穴?	後期前葉?	
19号	? × ? × 30	?	N - 12° -E	D?	4?	20? × 40	200×160		後期後葉	
20号	500 × ? × 45	?	N - 18° -W	C?	2?	40? × 70	?		後期後葉	
21号	? × 600 × 20	?	N - 4° -E	D?	4?	?	270? × 170		後期後葉?	

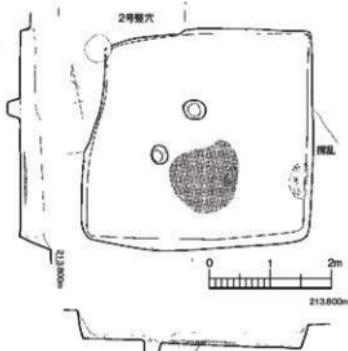
1号竪穴遺構

調査区Ⅰの南東に所在し、2号竪穴遺構と切り合っている。規模は3.7m程の小型の正方形を呈する平面観で、床面には2本の柱穴状の掘込みがある。配置的にも主柱穴かどうかは不明であるが、B類の1本主柱と補助柱の構造であると考えた。中央やや南よりに炭化物や焼土が見られた。

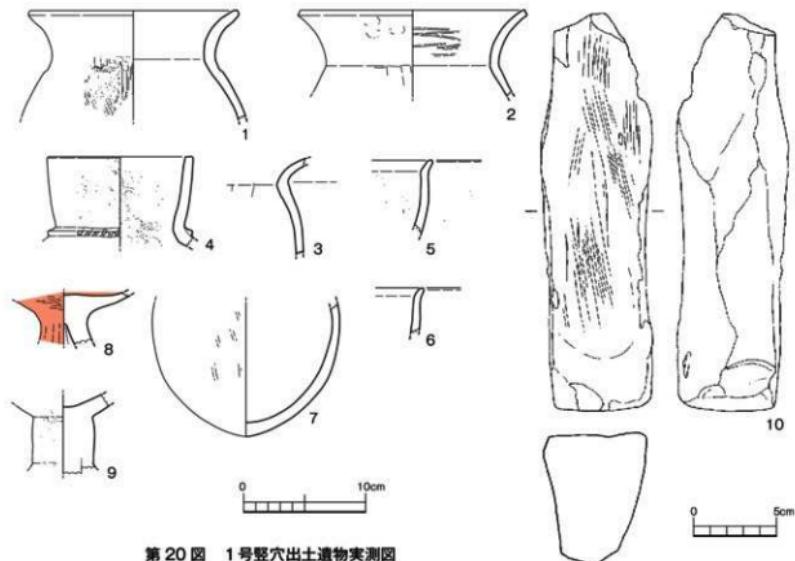
出土遺物は第20図で、1~3は壺の口縁部または頸部である。4は単口縁壺の口縁部で、頸部に刻目突帯がある。

5・6は鉢形土器と思われる口縁部で、7は壺と思われる丸底状の底部、8・9は高壺の脚部である。

石器は10の安山岩製の砥石が1点出土している。



第19図 1号竪穴遺構実測図

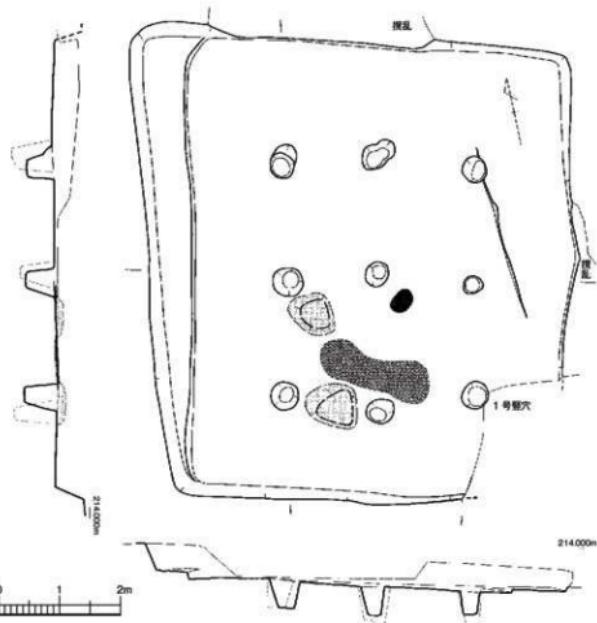


第20図 1号竪穴出土遺物実測図

2号竪穴遺構

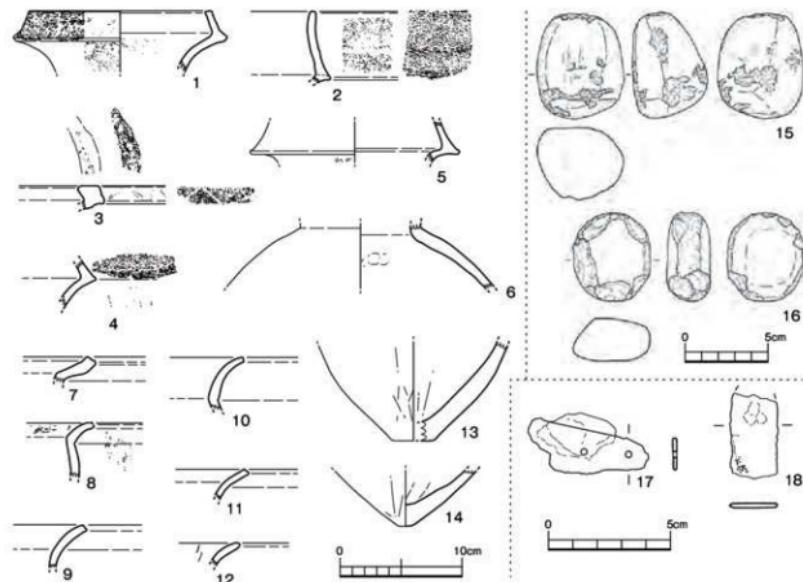
調査区Ⅰの南東に所在し、南東隅を1号竪穴遺構に切られている。大型の長方形を呈する平面観で、西側壁沿いに段差があり、増築等による張出とも思われる。柱は9本で、南東隅の柱穴1箇所に大型の礫が埋納されていた。床面には中央付近に焼土、やや南寄りに炭化物がある。また、中央南西寄りに柱抜取りに伴うと考えられる地山褐色土の盛土が2箇所確認できた。

出土遺物は第22図で、土器は1~14のうち、1~6は壺で1・2・4は複合口縁の外縁に波状文がある。3には外縁に鋸歯文、端部に円形凹文がある。7~12は壺の口縁部である。13・14は壺または壺の底部である。石器は15・16の敲石2点で、鐵器は17が鐵鎌の刃の一部、18は刀子と思われるもので、2箇所の孔



がある。他に第63図1の土器片加工品1点がある。

第21図 2号竖穴造構実測図



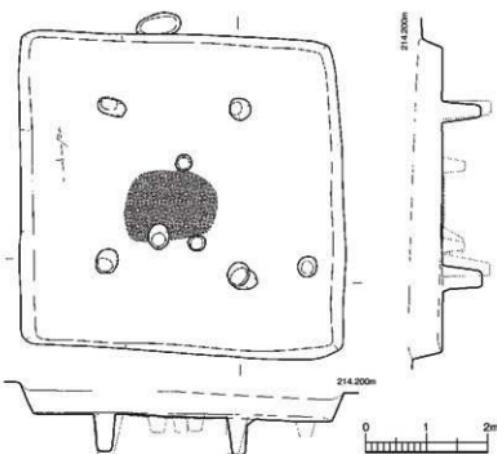
第22図 2号竖穴出土遺物実測図

3号竪穴遺構

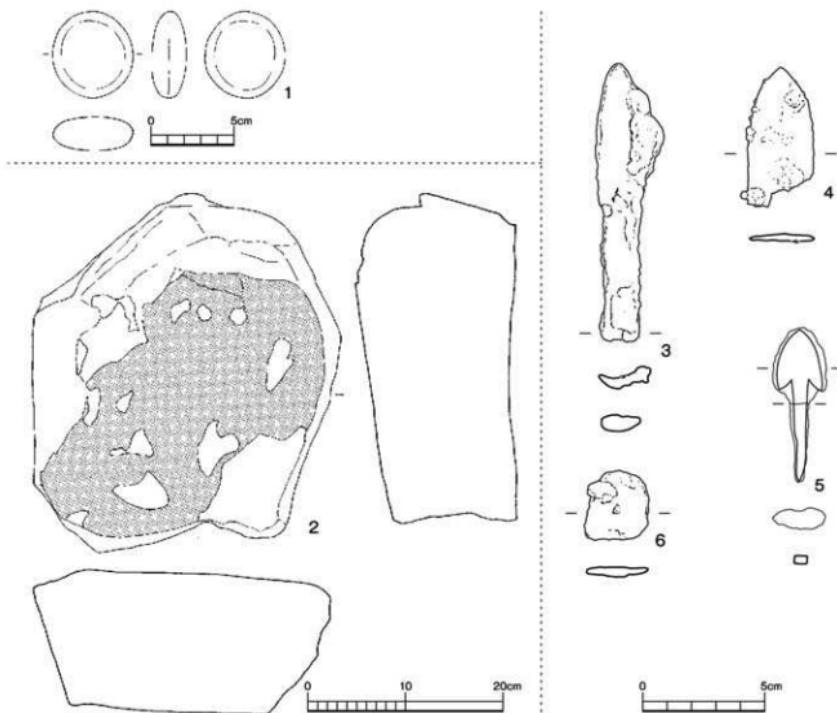
調査区Iの東寄りに所在し、2号掘立柱建物遺構と切り合っている。一辺が5.4m程の正方形状を呈する平面観で、主柱穴は4本であるが中央付近に補助的な柱穴があり、その内側の床面上に炭化物の堆積がある。

出土遺物は、土器は第25図で、1～6は複合口縁壺で、外面に1～4は波状文、5・6は鋸歯文があり、6の上面には円形貼付文がある。7～13は甕で、7の胴部外面に波状文がある。14～17は甕または壺などの底部である。

石器は第24図で、1は磨石、2は石皿で表面が平坦に研磨された大型の安山岩である。

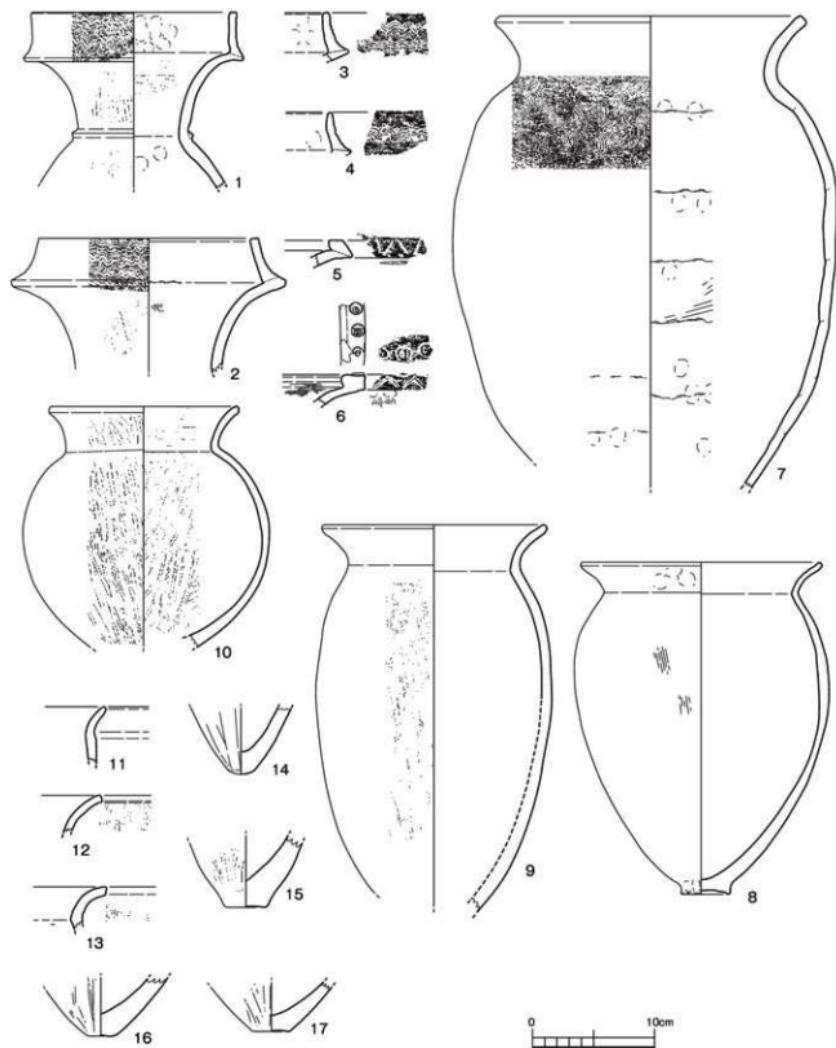


第23図 3号竪穴遺構実測図



第24図 3号竪穴出土遺物実測図（1）

鉄器は第24図3～6の4点があり、3は鉗、4・5は鉄鎌で、6は鉄鎌の刃先と思われるほか、器種不明の破片3点もある。他に第63図2の土器片加工品1点がある。

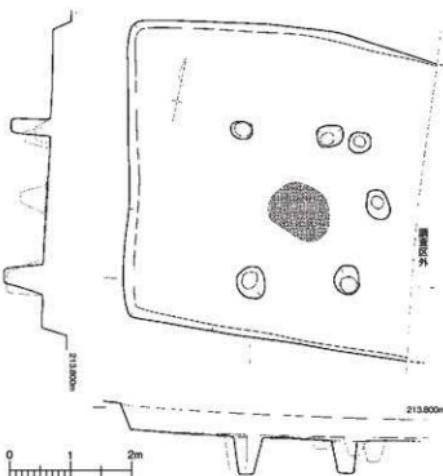


第25図 3号竪穴出土遺物実測図(2)

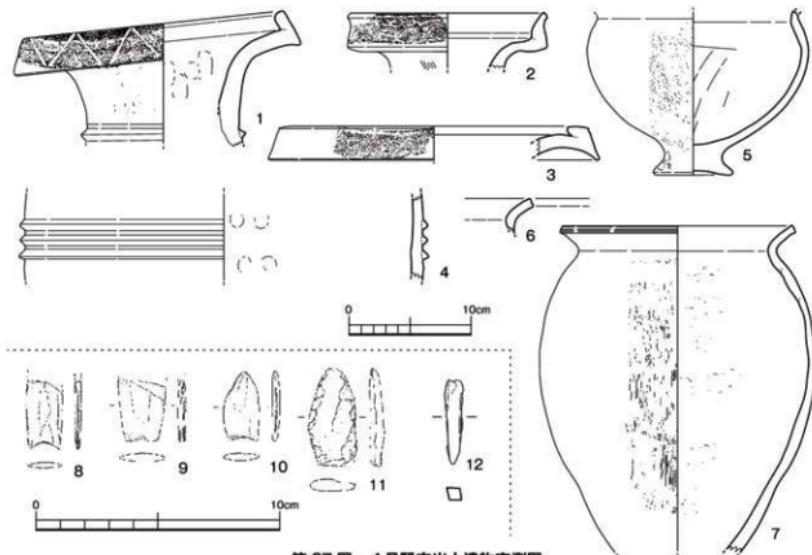
4号竪穴遺構

調査区Iの東側に所在し、東側が調査区外となっているが、一辺が5.3m程の方形形状を呈する平面観である。柱穴は配置に偏りがあり明確ではないが、四隅に配置する4本と思われる。中央付近の床面上に炭化物がある。

出土遺物は第27図で、土器は1～3は複合口縁壺の口縁部で、4は壺胴部、5は脚台付の鉢で、6・7は甕である。石器は8・9は先端を欠損した磨製石錐で、10・11は石錐未成品である。12は鐵錐茎部と思われる鐵製品である。



第26図 4号竪穴遺構実測図



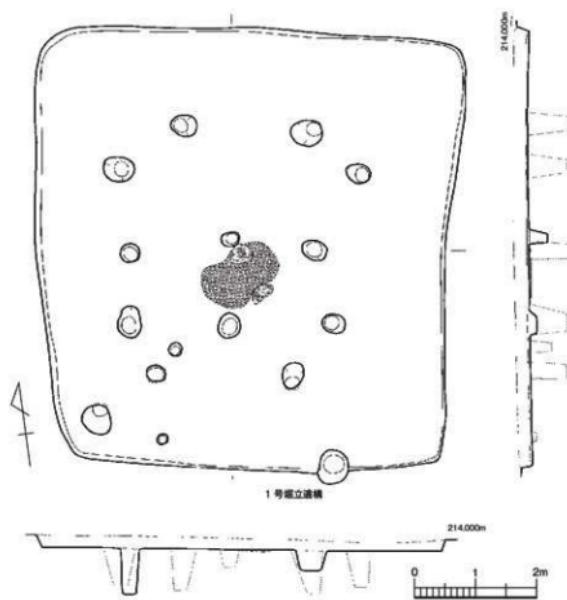
第27図 4号竪穴出土遺物実測図

5号竪穴遺構

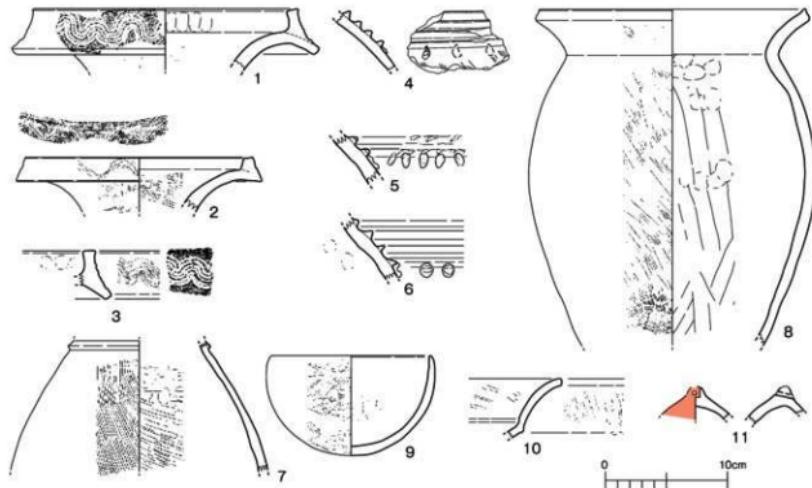
調査区Iの東側に所在し、1号掘立柱建物遺構と切り合っている。一辺が7m程の隅丸正方形形状を呈する平面観で、主柱穴はM類の8本柱と思われるが、多数の補助的な柱穴がある。床面は中央付近に焼土と炭化物がある。

出土遺物は、土器は第29図で、1～3は複合口縁壺の口縁部で、4～6は胴部に突帯および浮文があり、7の頭部に突帯がある。8は壺である。9は鉢で、10は高坏口縁部で、11は釣鐘形土器と呼ばれる底部に穿孔があるもので、外面は丹塗りである。

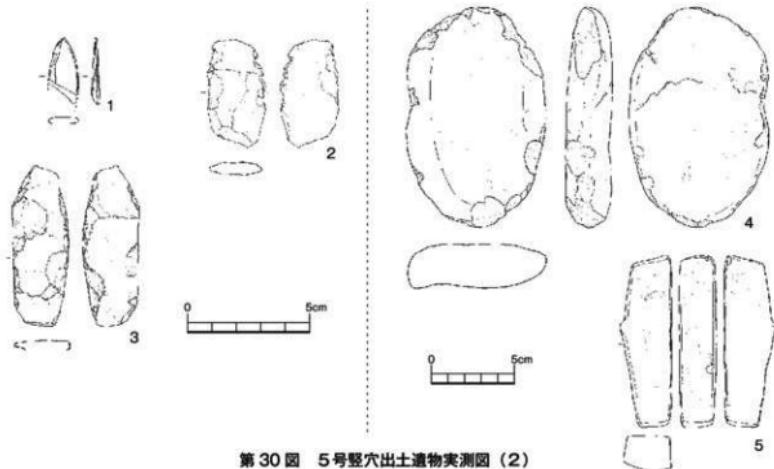
石器は第30図で、1は磨製石鎌、2・3は石鎌未成品である。4は敲石、5は砥石である。図示したもの以外に、拳大程の礫も多く、石鎌未製品と思われる粘板岩の剥片が多数出土している。



第28図 5号竪穴遺構実測図



第29図 5号竪穴出土遺物実測図（1）

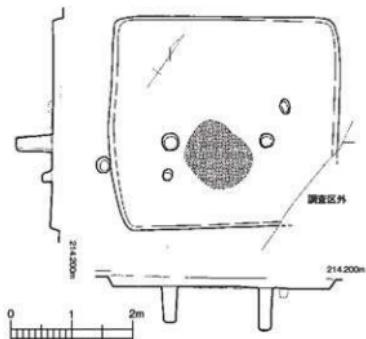


第30図 5号竪穴出土遺物実測図(2)

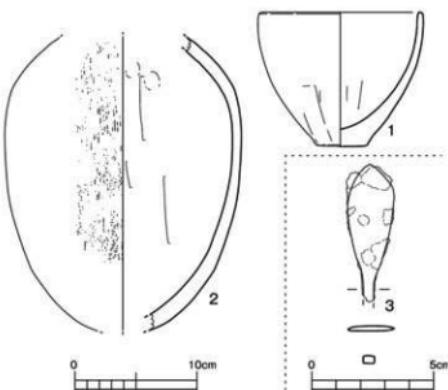
6号竪穴遺構

調査区Iの北東に所在し、東隅は調査区外となっているが、一辺が3.7m程の小型の正方形形状を呈する平面観である。主柱穴は中央より南東よりに2本深く掘り込まれており、C類の2本柱と思われる。柱の間の床面上に炭化物がある。

出土遺物は第32図で、1は完形の鉢で、2は壺型土器と思われる胴部である。3は鉄鏃である。他に第63図3の土器片加工品1点がある。



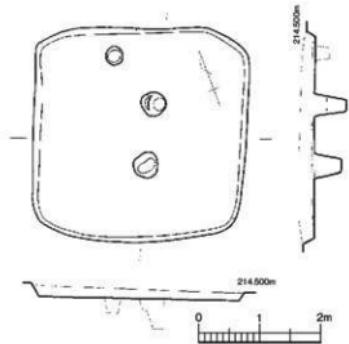
第31図 6号竪穴遺構実測図



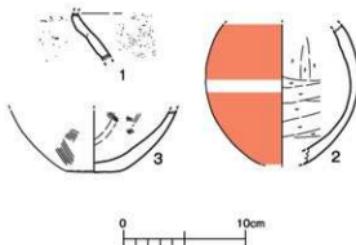
第32図 6号竪穴出土遺物実測図

7号竪穴遺構

調査区Iの北東に所在し、一辺が3.6m程の小型の隅丸方形形状を呈する平面観である。覆土全体に焼土や炭化物が混入されていたが、特に床面上には見られず、炉跡は不明である。主柱穴は中央付近に南北に配置されている2本と思われる。出土遺物は第34図で、1・2は壺または壺の胴部で、3は底部である。



第33図 7号竪穴遺構実測図



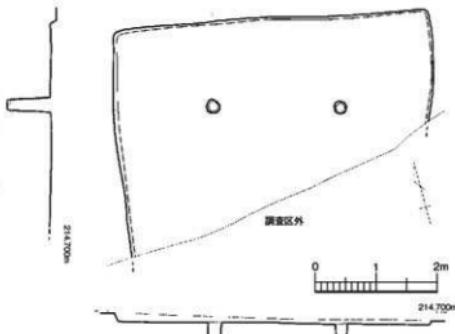
第34図 7号竪穴出土遺物実測図

9号竪穴遺構

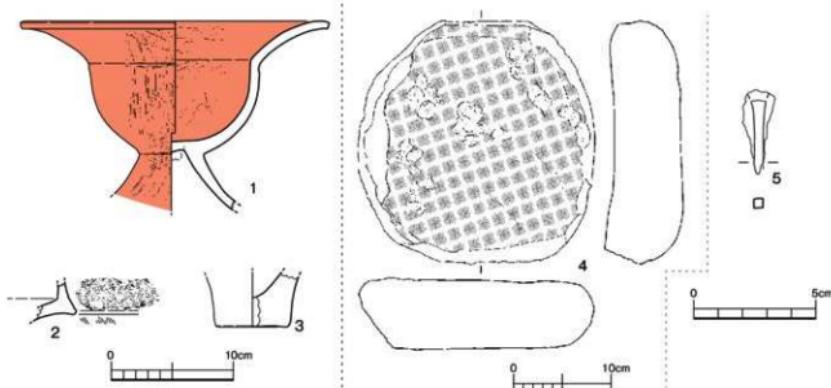
調査区Ⅰの南端に所在し、南側半分程は調査区外となっているが、一辺が54m程の正方形状の平面觀と思われる。主柱穴は現況から調査区外に2本あるものと思われ、4本柱と推定される。炉跡の痕跡はみられない。

出土遺物は第36図で、1は丹塗りの高壺である。2は複合口縁壺、3は底部である。石器は4の石皿で、表面に使用痕が残る。5は鉄鋤茎部と思われる鉄製品である。

他に第63図4・5の土器片加工品2点がある。



第35図 9号竪穴遺構実測図



第36図 9号竪穴出土遺物実測図

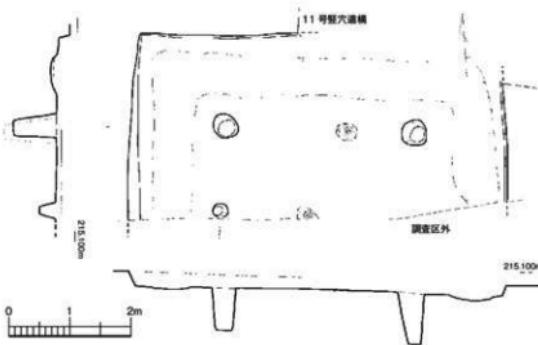
10号竪穴遺構

調査区Ⅰの南西に所在し、11号竪穴遺構と切合っている。南側約半分は調査区外となっているが、平面観は一辺が6m程の正方形状を呈すると考えられる。床面の端に幅60cm深さは10cm程度の浅い窪みが壁沿いに廻らせてている。主柱穴は現況から調査区外に2本あるものと思われ、4本柱と推定される。床面上2箇所に焼土がある。

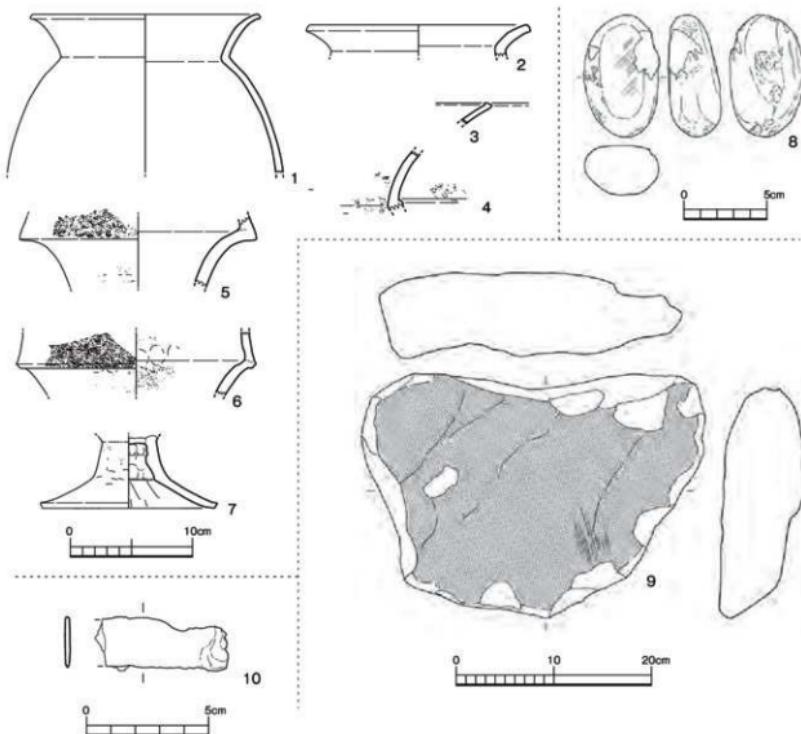
出土遺物は第38図で、1～3は

甕で、4～6は壺形土器、5・6は複合口縁で波状文がある。7は高環脚部である。8は磨石、9は石皿で表面は使用痕によりやや歪んでいる。10は鐵器で手鎌と思われる。

他に第63図6～8の土器片加工品3点がある。



第37図 10号竪穴遺構実測図



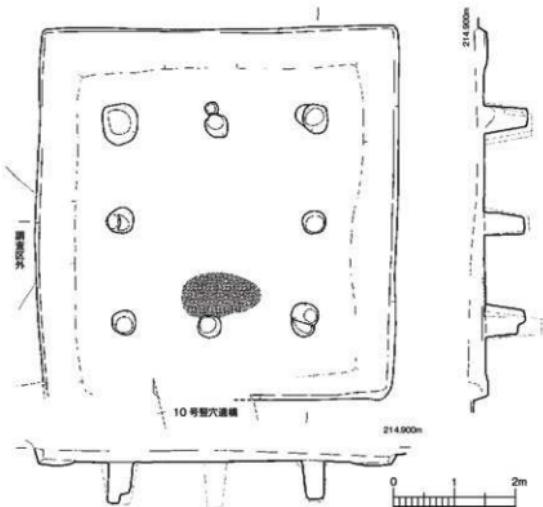
第38図 10号竪穴出土遺物実測図

11号竪穴遺構

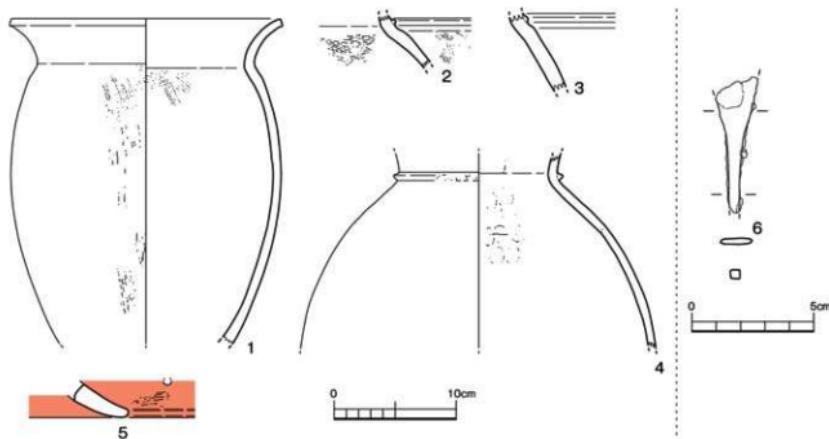
調査区Iの南西に所在し、南側は10号竪穴遺構と切合っている。一辺が6m程の正方形状を呈する平面観で、南側を除き、床面の壁沿いに幅70cm深さは10cm程度の浅い窪みが廻らせている。主柱穴はK類の8本柱と思われる。中央南寄り床面上に炭化物がある。

出土遺物は第40図で、1は壺で、2～4は壺の頸部から胴部にかけての一部である。5は高壠脚部と思われ、円形状の穿孔がある。6は鉄鎌の一部である。

他に第63図9・10の土器片加工品2点がある。



第39図 11号竪穴遺構実測図



第40図 11号竪穴出土遺物実測図

12号竪穴遺構

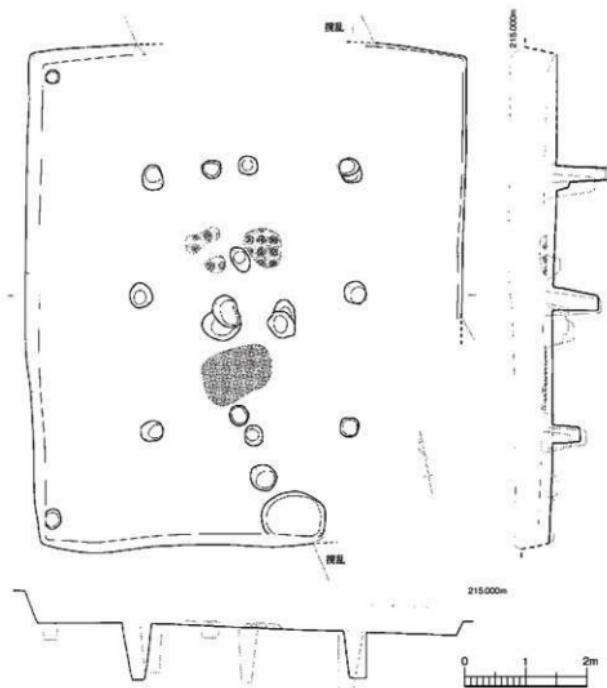
調査区Iの西側に所在し、大きく擾乱を受けて北壁と南東壁を失っているが、南北が8m程の大型の長方形状を呈する平面観である。主柱穴はK類の8本柱と思われるが、中央付近等に補助的な柱穴らしき掘込みがみられる。また、南壁に接するように浅い楕円形の土坑がある。中央北寄りに焼土を検出しているが、

床面より浮いた覆土中のものである。中央南寄り床面上に炭化物がある。

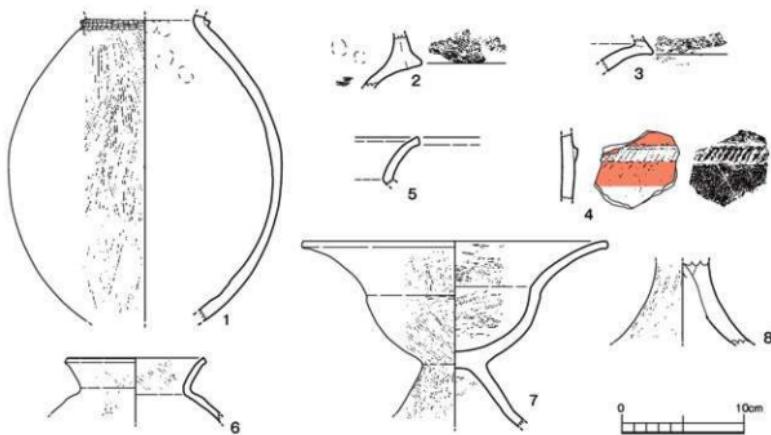
出土遺物について土器は第42図で、1～4は壺で、2・3は複合口縁壺口縁部で、4は刻目の突帯を有する丹塗りの颈部である。5・6は甕で、7・8は高坏である。

石器は第43図の1～4で1は砥石、2・3は磨石、4は石鎌未成品である。5～9は鐵器であり、他に器種不明の鉄片3点の出土がある。5は手鎌、6～9は鐵鎌である。

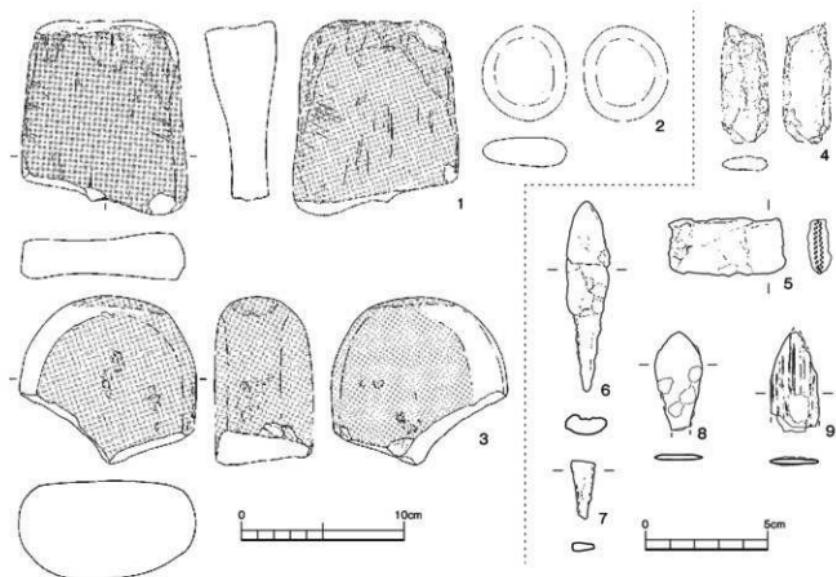
他に第63図11～16の土器片加工品6点がある。



第41図 12号竪穴構造実測図



第42図 12号竪穴出土遺物実測図(1)

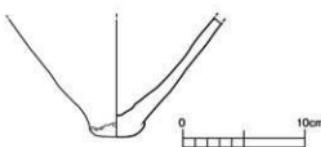


第43図 12号竪穴出土遺物実測図(2)

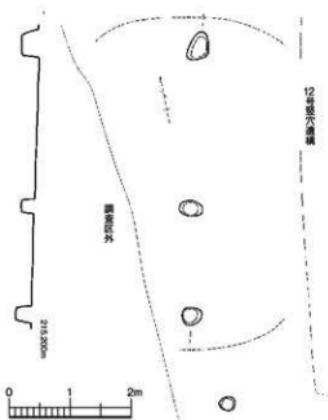
13号竪穴遺構

調査区Iの西側に所在し、12号竪穴と調査区外の間の位置である。表土剥ぎの段階で土器片の集中が見られ、当初は遺構の存在が想定されたが、柱穴が検出できたのみで床面や壁などは確認できなかった。掘立柱建物の一部の可能性もあるが、柱穴も浅く残りは良くないため、遺構としての規模形態は不明である。

出土遺物は第45図で、器種不明の粘土貼付け状の底部である。



第45図 13号竪穴出土遺物実測図

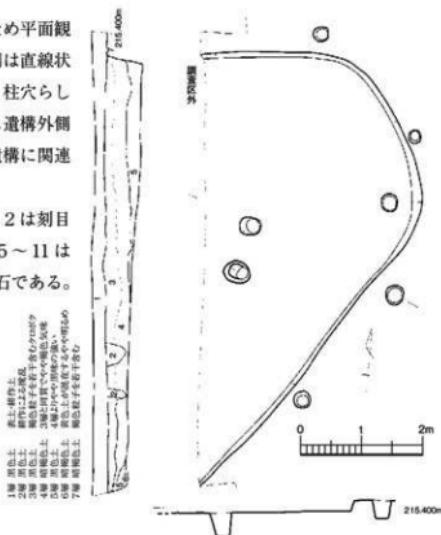


第44図 13号竪穴遺構実測図

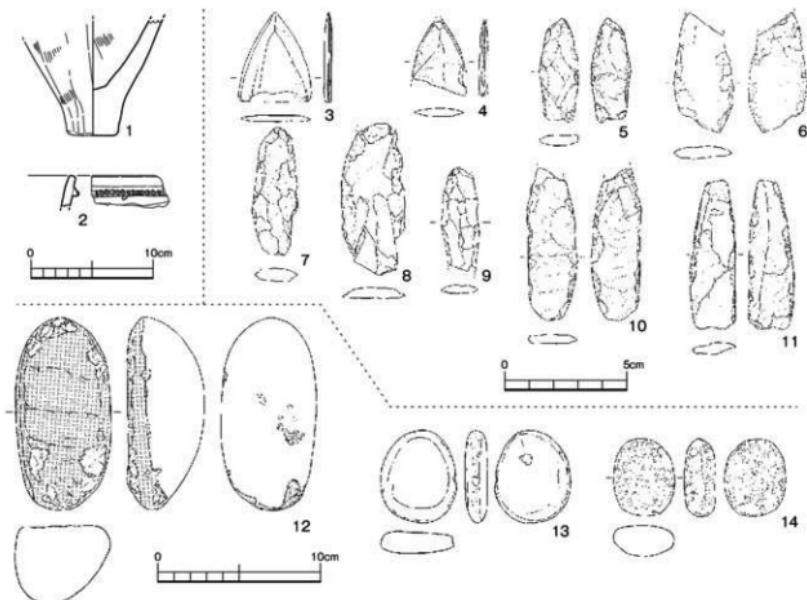
14号竪穴遺構

調査区Iの西端に所在し、西側が調査区外のため平面観については不明であるが、北側は弧を描き、南側は直線状に延びており楕円形または半円形であろうか。柱穴らしい穴もあるが主柱穴の配列も不明である。しかし遺構外側の壁に沿って等間隔に穴を配置しており、竪穴遺構に関する可能性もある。

出土遺物は第47図で、1は壺形土器の底部、2は刻目突帯のある口縁部である。3・4は磨製石鎌で5～11は石鎌などの未品である。12・13は磨石、14は敲石である。



第46図 14号竪穴遺構実測図



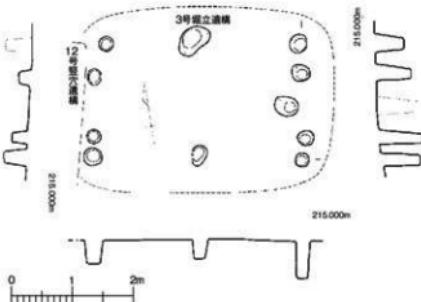
第47図 14号竪穴出土遺物実測図

18号竪穴遺構

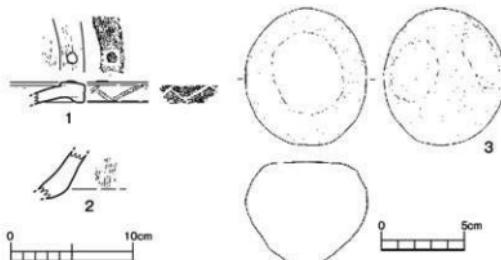
調査区Iの中央西寄りの12号竪穴に隣接した位置で、3号壠立柱建物遺構と切り合っている。13号と同じく表土剥ぎの段階で土器片の集中が見られ、当初は遺構の存在が想定された。柱穴が長方形形状の配列で検出できたが、削平により失われたのか床面や壁などは確認できず、竪穴遺構としての規模形態は不明である。また、掘立柱建物の可能性もあるが、四隅に4本と補助柱穴を配置した主柱穴と考えられる。

出土遺物は第49図で、1は複合口縁壺で、外側に鋸歯文、上面に円形貼付文がある。

2は底部、3は磨石である。



第48図 18号竪穴遺構実測図

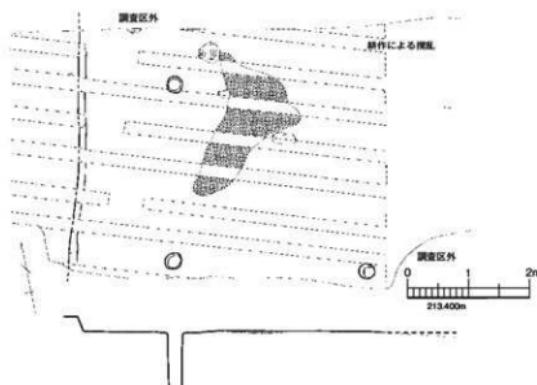


第49図 18号竪穴出土遺物実測図

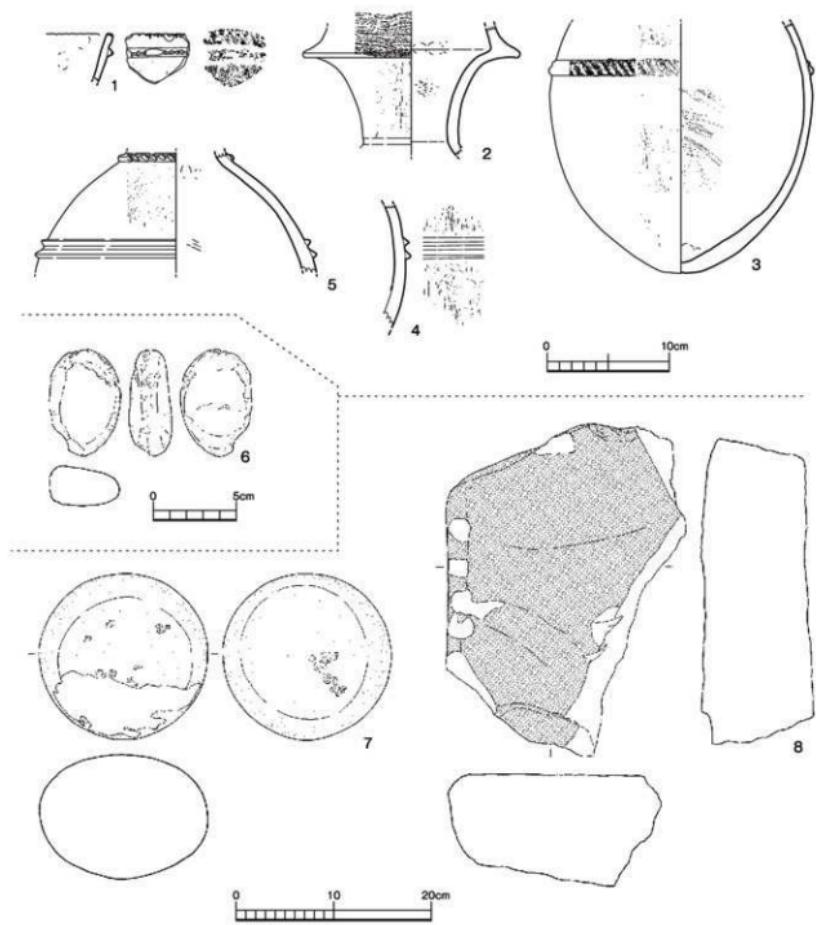
19号竪穴遺構

調査区IIの南側に所在し、傾斜地のため西壁のみの検出で、南北端は調査区外、東壁は削平により失われている。方形の平面観と考えられ、柱穴配置から一辺6m程の規模と推定される。搅乱により筋状に削平されているが、床面には炭化物と焼土が確認できた。

出土遺物は第51図で、1は刻目のある壺形土器で、2~5は壺で、2は波状文のある複合口縁部で、3~5は胴部である。6は敲石で、7は研磨痕のある円碟で、磨石とも考えられるが大型のため台石とした。8は石皿であるが欠損している。



第50図 19号竪穴遺構実測図

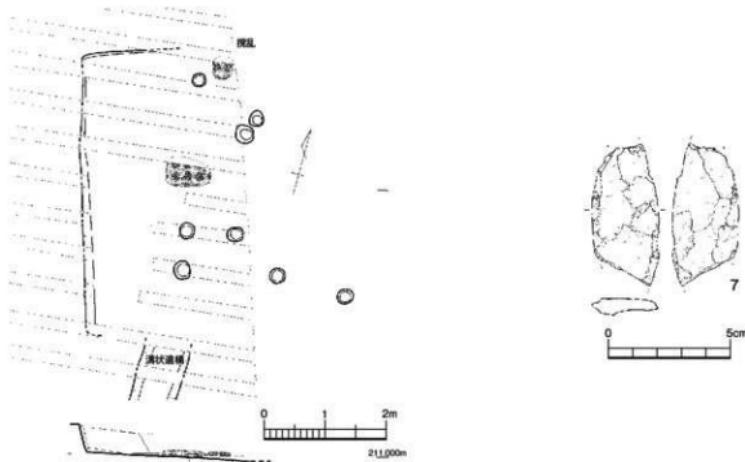


第51図 19号竪穴出土遺物実測図

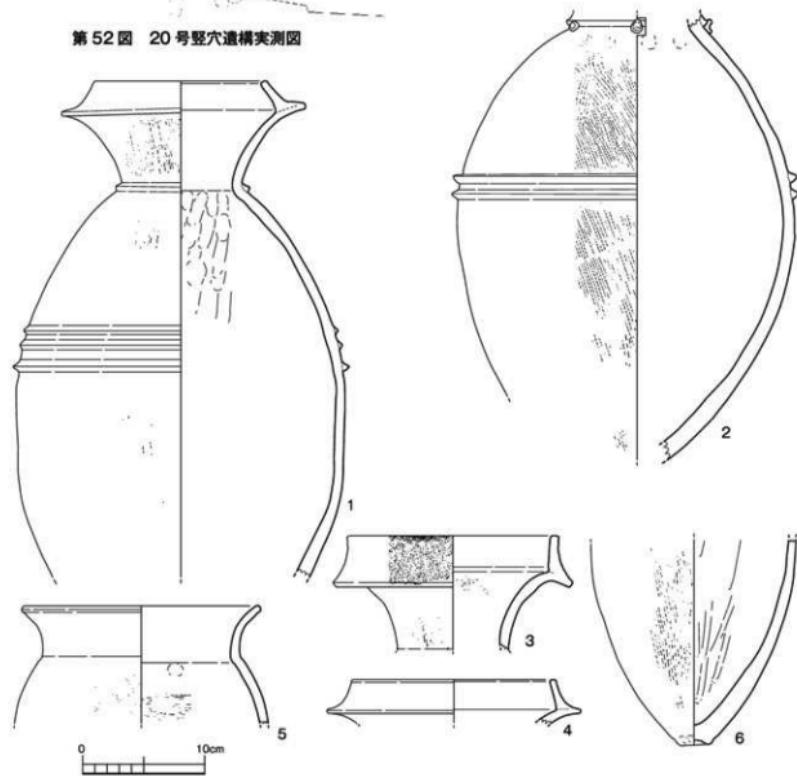
20号竪穴遺構

調査区Ⅱの東側に所在し、溝状遺構と切り合っている。搅乱により筋状に削平されているうえに、東半分は床面も失われている。壁面の残存状況から方形の平面観と考えられ、一辺5m程の規模と推定される。焼土が確認できたが、床面よりやや浮いた位置である。主柱配列は不明確であるが、中央付近に南北に並ぶ2本と思われる。

出土遺物は第53図で、1～4は壺で、2の頸部に貼付浮文があり、3・4は複合口縁部である。5は壺形土器、6は底部である。7は石錠未成品と思われる。



第52図 20号竪穴遺構実測図

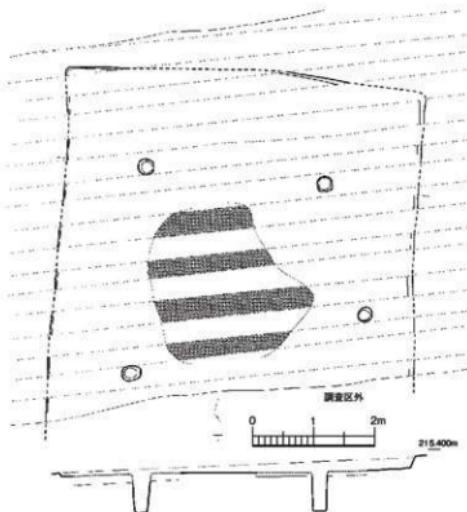


第53図 20号竪穴出土遺物実測図

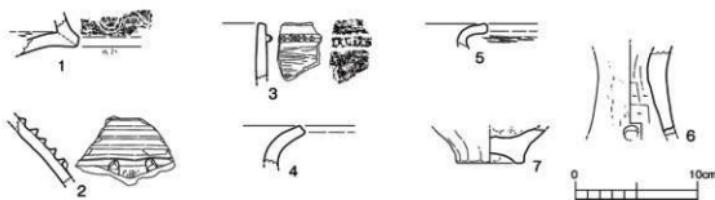
21号竪穴遺構

調査区Ⅲの南側に所在し、南端は調査区外であるが方形の平面觀と考えられる。残る柱穴配置から一辺7m程の規模と推定される。搅乱により筋状に削平されているが、床面には炭化物が確認できる。

出土遺物は第55図で、1・2は壺形土器で、1は複合口縁部、2は胴部である。3・4は壺形土器で、3は刻目突帯のある口縁部で、5は壺または鉢形土器の口縁部である。6は高環脚部、7は底部である。



第54図 21号竪穴遺構実測図



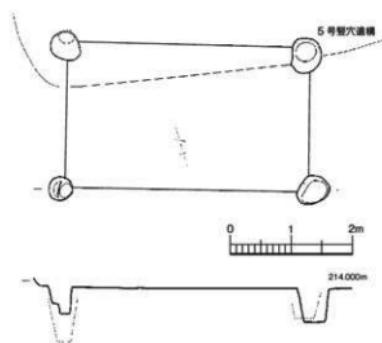
第55図 21号竪穴出土遺物実測図

(2) 捜立柱建物遺構

調査区Iで3棟が確認されており、すべて4本柱の1間×1間の長方形構造である。柱穴状の遺構は調査区全域で分布しているが、比較的径が大きく、長軸が4m程の規模の配列を成すものを掘立柱建物と判断した。3棟とも長軸を東西方向にとるもので、弥生時代後期の竪穴遺構とは同じ時期と推定される。

1号掘立柱建物遺構

調査区Iの東よりで検出し、5号竪穴遺構を切ってい る。

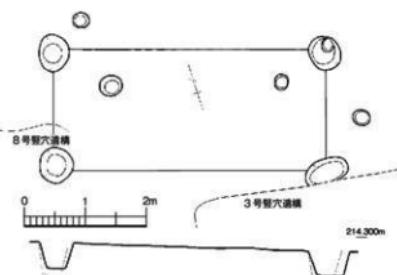


第56図 1号掘立柱建物遺構実測図

規模は南北 24 m 東西 4.0 m で、長軸は 2 号掘立柱建物遺構と同一の方向 N -72° - W である。

2号掘立柱建物遺構

調査区 I の東よりで検出し、3号及び 8号竪穴遺構を切って掘り込まれているが、新旧は明確ではない。規模は南北 2.0 m 東西 4.4 m で、長軸を 1号掘立柱建物遺構と同一の方向 N -72° - W である。

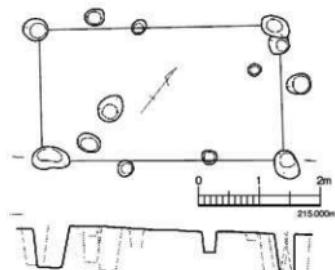


第 57 図 2号掘立柱建物遺構実測図

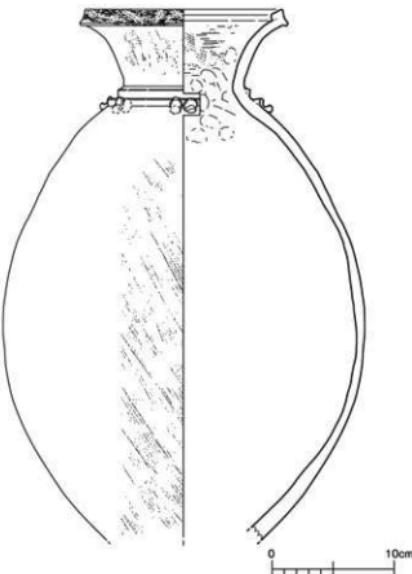
3号掘立柱建物遺構

調査区 I の中央西よりで検出し、18号竪穴遺構と切りあっているが、新旧は明確ではない。規模は南北 2.2 m 東西 3.9 m で、長軸の方向は N -52° - W である。

第 58 図は柱穴内より出土した壺形土器である。



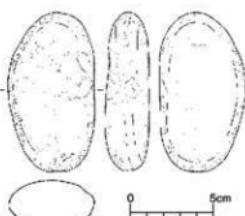
第 58 図 3号掘立柱建物遺構実測図



第 59 図 3号掘立柱建物遺構出土遺物実測図

(3) 溝状遺構

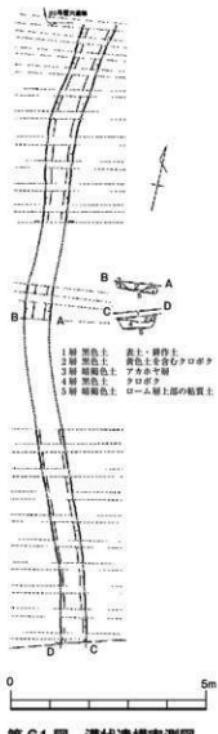
調査区 II の 20号竪穴の南側で 1箇所確認した。筋状の搅乱のため部分的のみの検出であるが、幅 60cm、検出面より深さ 30 ~ 60cm で断面は逆台形に近い皿状の形態である。方位は南北方向に伸びており、確認できた長さは 16 m である。南側は調査区外、北側は 20号竪穴に切られ、さらに搅乱により検出できず、性格は不明である。遺物は第 60 図の敲石及び、わずかな土器片のみである。



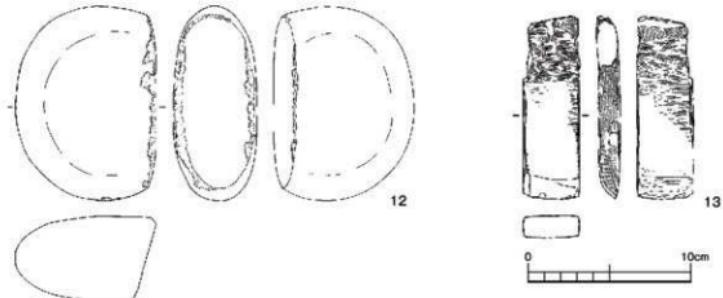
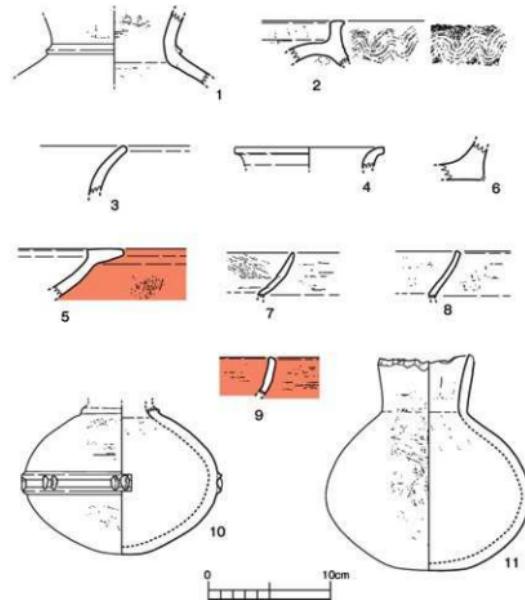
第 60 図 溝状遺構出土遺物実測図

(4) 一括採取遺物

弥生時代の遺物も遺構以外の表土や攪乱土層中などから多くの遺物が採集されている。第62図1・2は壺形土器で、1は頸部、2は複合口縁部外側に波状文がある。3・4は甕で、5は高環口縁部である。6は底部、7～9は小型壺の口縁と思われる。10・11はこの付近より採集されたと伝わる遺物で、大野公民館に所蔵されていた長頸壺で、10の胴部には突帯及び浮文がある。12は磨石で、13は扁平片刃石斧である。



第61図 溝状遺構実測図



第62図 弥生時代一括採取遺物実測図

(5) 出土遺物

土器

主に大野川中流域の各遺跡で見つかっている遺物と共通したもので、壺や甕を主体として高壠や鉢が確認できる。その時期は弥生時代中期後半～古墳時代初頭にかけてのもので、特に後期後葉～終末が多く主体となる時期と考えられる。

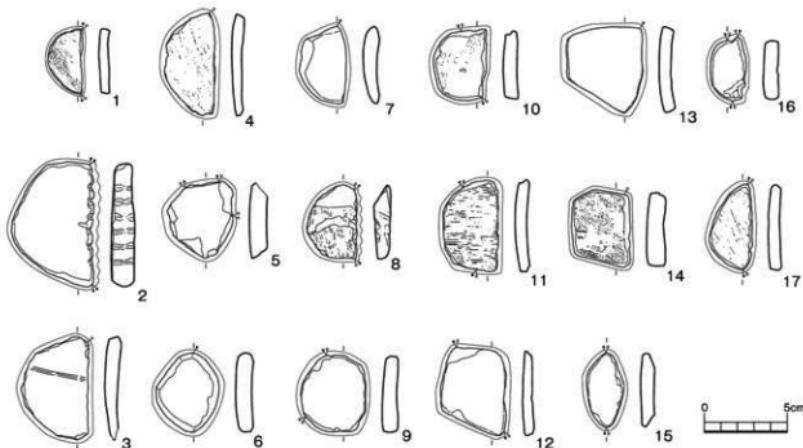
壺は複合口縁を有するいわゆる安国寺式土器で、他に単口縁壺や小型壺などもある。頸部から胴部にかけて三角突帯や浮文を有する後期前葉のものから、頸部に指押えの突帯を有する後期終末から古墳時代初頭と思われるものも出土している。甕は刷毛目調整で砲弾形の胴部を呈する白鹿山周辺城のものや、厚手で櫛描文を有する粗製甕が特徴的な大野原地域のものも含み、両方の文化圏の遺物が見られる。高壠は半球状の壠身にやや屈曲しながら開く形態のものが多く、鉢形土器は低い脚部を有するものや、平底・丸底などの形式が確認できる。

その他、釣鐘形土器と呼ばれるものが1点あり、第29図の11は尖り気味の底部のみであるが、貫通した径2mm程の穿孔がある。二本木遺跡や松木遺跡の出土例と同様に、器形については鉢状になると思われる。

中期後半の土器として刻目突帯が特徴の下城式土器も各遺構より出土しているが、数は少なく、ほとんど流れ込み状態の出土である。14号堅穴遺構は後期の遺物を含まないことから唯一の中期の遺構と考えられる。

土製品

土器片加工品が17点確認されている。土器の破片を加工して再利用したと考えられ、用途については不明であるが、大野川流域の各集落遺跡で普遍的に出土している遺物である。多くは半月形の形態で、他に円形や方形などが知られており、今回の調査区での出土例とは形態的にも共通している。第63図の1・3・4・7・10・11・17は前周を研磨した半月形のもので、5はその欠損と考えられる。2・8は弦部に刻みが入るもので、16は弧部にノッチが入っている。他に円形に近い形態のものが2点(6・9)、不定形で方形に近いもの(12～14)、木葉状の(15)がある。12号堅穴より最も多い6点が出土している。



第63図 土器片加工品実測図

石器

石器は石鎚、敲石、磨石、砥石、石皿など他の遺跡群と共通した内容のものである。他に扁平打製石斧も堅穴遺構から出土しているが、縄文時代後期より多く出土するこの遺物は形態的に変化がなく、時期の比定ができない。遺構からは多くの縄文土器と同時に出土している状況により、土器と同様に流れ込みによると判断できるため、縄文時代の採集遺物として第17図・18図に図示している。弥生時代の遺構より出土したものには、6・22が1号堅穴、2・15・16は3号堅穴、12・18は4号堅穴、3・20・24は5号堅穴、10は7号堅穴、19は10号堅穴、14は11号堅穴、4・11・13は12号堅穴、8・26は14号堅穴、9・25は20号堅穴からの出土である。

磨製石鎚は粘板岩または緑色片岩製である。第47図3は完形で二等辺三角形に近い形態で、4はその欠損品と思われる。第30図1は先端部、第27図8・9は基部で、ともに柳葉形を呈すると思われる。石鎚の未成品と考えられるものが4・5・12・14・20号堅穴遺構などから出土しており、多くが粘板岩製である。特に14号堅穴より数量的に多く、図示していないが5号堅穴遺構からも同じ粘板岩の剥片や碎片が多く検出されており、両遺構は石鎚製作の関連が考えられる。

磨石は3・10・12・14・18号堅穴遺構等より8点出土し、敲石は2・5・14・19号堅穴遺構及び溝状遺構より6点出土している。拳大程度の円礫に使用痕として研磨面が顕著なものを磨石、敲打痕が顕著なものを敲石としたが、両方の痕跡を有するものもあり、機能的には併用されたものと思われる。

砥石は1・5・12号堅穴遺構より3点出土し、いずれも顕著な研磨痕があるが、特に第43図1は表裏面が磨り減って窪んでいる。石皿・台石は3・9・10・19号堅穴遺構より5点出土し、大型の礫に研磨痕がみられることから、磨石・敲石と組み合わせて利用したと思われる。他に採集遺物として磨製の片刃石斧（第61図3）もある。

鉄器

鉄器は16点のうち12点が鉄鎚と思われるもので最も多く、他に鉈、手鎌、刀子が確認できる。

鉄鎚の形態は、第43図6は細身の柳葉形で第22図18はその欠損と思われる。第32図3・第43図8はやや幅の広い木葉形である。第24図5には逆刺のある腸抉式で、第43図9は先端に木質が付着している。第27図12・第40図6・第43図7は茎部と思われる。

鉈は第24図3が完形での出土である。手鎌（摘鎌）と思われるものとして第38図10や第43図5がある。第22図17は2箇所の孔があるので、刀子と思われる。他に器種不明鉄製品が3号・12号堅穴遺構より出土している。

第3表 中道遺跡出土遺物観察表(弥生土器1)

出土遺構 番号	因 版 番 号	器 種	法量(cm)				始 土				調 整				焼 成	備 考	
			器 口 径	柄 最 大 径	底 径	高 度	白色 浮 粒	赤色 浮 粒	角 長 石	右 石	左 石	その 他の 施 工	内 面	外 面			
			高 度	高 度	高 度	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し	有 無 し			
1号発掘穴	20	1 瓢	(9.0)	(17.0)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良		
		2 瓢	(7.1)	(18.4)	-	-	○	○	○	○	○	ミガキ・ナデ	横ナデ・指オサエ・工具ナデ	灰黄褐	良	スス付着	
		3 壺	(7.9)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・工具瓶	横ナデ・ナデ	灰黄褐	良	スス付着	
		4 盆	(7.4)	(11.8)	-	-	○	○	○	○	○	ハケ日・指オサエ	ハケ日・指オサエ	にふい黄橙	良	黒斑・網目安価	
		5 鉢	(6.1)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ	灰黄褐	良		
		6 筋	(3.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	淡黄褐	良		
		7 罐?	(11.0)	-	(15.4)	-	○	○	○	○	○	ナデ	ミガキ	にふい黄橙	良	黒斑	
		8 高杯	(4.2)	-	-	-	○	○	○	○	○	ミガキ	ミガキ・工具ナデ	明黄褐	良	丹塗り	
		9 高杯	(6.1)	-	-	-	○	○	○	○	○	ナデ	ミガキ・工具ナデ	淡黄褐	良		
2号発掘穴	21	1 瓢	(5.0)	(15.0)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ハケ日・指オサエ	ハケ日・横ナデ	淡黄褐	良	流状文	
		2 瓢	(5.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	灰黄褐	良	液状文	
		3 瓢	(1.9)	-	-	-	○	○	○	○	○	ナデ	ナデ	灰黄褐	良	断面文・円形凹文	
		4 瓢	(4.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ハケ日	灰黄褐	良	液状文	
		5 瓢	(3.3)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・指オサエ	にふい黄橙	良		
	22	6 瓢	(5.15)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	にふい黄橙	良		
		7 壺	(2.2)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	灰黄褐	良		
		8 瓢	(4.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	ハケ日・ナデ	ハケ日・横ナデ	褐・褐灰	良		
		9 瓢	(3.6)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	にふい黄橙	良		
		10 瓢	(4.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	灰黄褐	良		
		11 瓢	(2.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	明黄褐	良	内面に黒斑	
		12 瓢	(1.9)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・工具瓶	横ナデ	にふい黄橙	良		
		13 不明	(8.2)	-	(32)	-	○	○	○	○	○	工具ナデ	工具ナデ	淡黄褐	良	底部	
		14 不明	(4.6)	-	11	○	○	○	○	○	ナデ	工具ナデ	工具ナデ	灰黄褐	良	底部	
3号発掘穴	23	1 瓢	(3.9)	(16.0)	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ・横ナデ・ハケ日・ナデ	横ナデ・指オサエ・ハケ日・ナデ	にふい黄橙	良	液状文・突部	
		2 瓢	(10.6)	(17.2)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・ハケ日	横ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良	液状文	
		3 瓢	(3.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ	指オサエ	にふい黄橙	良	液状文	
		4 瓢	(3.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ	指オサエ	にふい黄橙	良	液状文	
		5 瓢	(2.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良	断面文	
	24	6 瓢	(2.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	ハケ日	横ナデ・指オサエ・ナデ	横ナデ・ナデ・指オサエ・ナデ	明	断面文・貼付文	
		7 瓢	(3.8)	241	309	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ナデ・指オサエ・ナデ	にふい黄橙	良	液状文・外側に黒斑	
		8 瓢	26.6	(19.2)	-	(37)	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日・指オサエ	にふい黄橙	良	スス付着	
		9 瓢	(31.7)	(18.1)	-	-	○	○	○	○	○	ナデ	横ナデ・ミガキ・指オサエ	にふい黄橙	良	スス付着	
		10 瓢	(19.4)	150	(19.8)	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ・ハケ日	淡黄褐	良	スス付着	
		11 壺	(4.6)	-	-	-	○	○	○	○	○	ナデ	横ナデ・ミガキ	にふい黄橙	良		
		12 壺	(3.1)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ハケ日	褐灰	良		
		13 壺	(3.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ナデ	褐	良		
		14 不明	(5.5)	-	21	○	○	○	○	○	ナデ	工具ナデ	工具ナデ	黑褐	良		
		15 不明	(4.7)	-	20	○	○	○	○	○	ナデ	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ	にふい黄橙	良	底部	
		16 不明	(5.8)	-	(32)	○	○	○	○	○	ナデ	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ	にふい黄橙	良	底部	
		17 不明	(4.0)	-	28	○	○	○	○	○	ナデ	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ	淡黄褐	良	底部	
4号発掘穴	25	1 瓢	(10.9)	20.9	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・指オサエ	横ナデ・ナデ・指オサエ	にふい黄橙	良	断面文・突部	
		2 瓢	(4.4)	(15.4)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良	液状文	
		3 瓢	(2.7)	(24.8)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・指オサエ	横ナデ・指オサエ	良	液状文	
		4 瓢	(7.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	ナデ・ナデ	ナデ・ナデ	にふい黄橙	良	液状文	
		5 鉢	(13.2)	-	-	(60)	○	○	○	○	○	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ハケ日・指オサエ・ナデ	褐	スス付着		
	26	6 壺	(2.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	にふい黄橙	良	スス付着	
		7 壺	(26.4)	(18.4)	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	にふい黄橙	良	スス付着	
		8 壺	(4.9)	(21.1)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良	液状文	
		9 壺	(4.4)	(18.3)	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ	良	液状文	
		10 壺	(3.9)	-	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ	指オサエ	灰黄褐	良	液状文・黒斑	
5号発掘穴	27	1 壺	(5.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日・ナデ	にふい黄橙	良	突部	
		2 壺	(4.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	(剥落)	横ナデ	にふい黄	良	剥落・突部・浮文	
		3 壺	(5.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	淡黄褐	良	液状文	
		4 壺	(2.7)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ	褐	貼付空隙・浮文		
		5 壺	(10.5)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・指オサエ	横ナデ・指オサエ	にふい黄橙	良	断面・竹節状	
	28	6 壺	(5.0)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ	横ナデ・指オサエ・工具ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日・ナデ	にふい黄橙	良	スス付着
		7 壺	(27.0)	(21.4)	(23.2)	-	○	○	○	○	○	横ナデ・指オサエ・工具ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ日・ナデ	にふい黄橙	良	外側に黒斑	
		8 壺	8.3	12.7	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ・ミガキ	黄褐	良		
		9 环	(4.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ・ミガキ	にふい黄橙	良		
		10 高杯	(2.9)	-	-	-	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ・ミガキ	にふい黄橙	良		
6号発掘穴	32	1 鉢	108	126	-	4.0	○	○	○	○	○	横ナデ・ナデ・工具ナデ	横ナデ・ナデ・工具ナデ	良	スス付着		
	32	2 壺	(24.1)	-	-	-	○	○	○	○	○	指オサエ・ナデ・ナデ・工具ナデ	指オサエ・ナデ・ナデ・工具ナデ	にふい黄橙	良	スス付着	
	34	1 壺	(3.8)	-	-	-	○	○	○	○	○	ハラ削り・指オサエ・ナデ・ナデ	ハラ削り・指オサエ・ナデ・ナデ	黄灰	良		
	34	2 壺	(11.1)	-	(120)	-	○	○	○	○	○	ケズリ	ミガキ・ナデ	にふい黄橙	良	外側に丹塗り・外側に黒斑・突起部	
	34	3 不明	(4.9)	-	-	4.3	○	○	○	○	○	ハケ日・ミガキ	ナデ・ハケ日	にふい黄橙	良		

第4表 中道遺跡出土遺物観察表(弥生土器2)

出土 遺構 番号	図 版 番 号	器 種 高 度	法 量 (cm)			胎 土	調 整			色 調 (内面/外層)	焼 成	備 考
			器 口 径	胸 最 大 幅	底 径		内 面	外 面				
9 号 竪 穴	36	1 高环 (15.2)	24.8	-	-	○○	○○○○	ミガキ・ナデ・指オサエ	横ナデ・ハケ目・ミガキ	赤	良	内外面に丹塗り
		2 突 (3.2)	-	-	-	○○	○○○○	横ナデ	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	
		3 寛 (4.4)	-	-	(5.8)	○	○○○	ナデ	ナデ	灰青褐色 に赤い	良	
10 号 竪 穴	38	1 突 (13.0)	(18.4)	-	-	○○	○○○○	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	棕に赤い黄緑	良	スズ台着
		2 突 (25)	(17.4)	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	棕	良	
		3 突 (1.7)	-	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	棕	良	黒斑
		4 突 (4.8)	-	-	-	○○○○	ハケ目・ナデ	ハケ目・横ナデ	横ナデ	灰青褐色 貼付帯	良	貼付帯
		5 突 (5.8)	-	-	-	○○○○	不明	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	棕	良	波状文
		6 突 (5.1)	-	-	-	○○○○	ハケ目・ナデ・ナデ・ナデ	ハケ目・横ナデ・ナデ・ナデ	横ナデ	良	波状文	
11 号 竪 穴	40	1 突 (5.8)	-	-	(13.9)	○○○○	指オサエ・ナデ・工具ナデ	ハケ目・工具ナデ・横ナデ	棕に赤い	良	スズ台着	
		2 突 (4.0)	-	-	-	○○○○	横ナデ・ハケ目・ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	スズ台着	
		3 突 (5.8)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	に赤い黄緑	良	貼付帯
		4 突 (4.7)	-	-	-	○○○○	横ナデ・指オサエ後ナデ	横ナデ・工具ナデ	横ナデ	良	指オサエの貼付帯	
		5 高环 (2.5)	-	-	-	○○○○	横ナデ	ミガキ	ミガキ	赤褐	良	黒斑・赤色顔料・草孔
		6 突 (24.9)	-	(22.2)	-	○○	指オサエ・ナデ・ハケ目	横ナデ・指オサエ・ハケ目・ミガキ	横ナデ	良	突帶	
12 号 竪 穴	42	1 突 (4.1)	-	-	-	○○○○	ナデ・指オサエ・ハケ目	横ナデ・ナデ	横ナデ	良	波状文	
		2 突 (2.5)	-	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	波状文	
		3 突 (6.2)	-	-	-	○○○○	ハケ目・横ナデ	ハケ目・横ナデ	横ナデ	良	丹塗り・輪目突帶	
		4 突 (3.8)	-	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	良	スズ付着	
		5 突 (6.5)	-	-	-	○○○○	ハケ目・ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	良	スズ付着	
		6 突 (13.6)	-	-	-	○○○○	ハケ目・ミガキ	横ナデ・ハケ目・ナデ・ミガキ	横ナデ	良	外面上に黒斑	
13号 竪 穴	45	7 高环 (15.1)	(24.6)	-	-	○○○○	ナデ・ハケ目	ハケ目・ミガキ	横ナデ	良	波状文	
		8 高环 (6.5)	-	-	-	○○○○	ナデ・ハケ目	ハケ目・ミガキ	横ナデ	良	外面上に黒斑	
14 号 竪 穴	47	1 突 (10.3)	-	47	○	○○○○	ナデ	ナデ	ナデ	良	内面丹塗り?スズ付着?	
		2 突 (9.5)	-	-	35	○	○○○○	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	に赤い黄緑	良	スズ付着
15 号 竪 穴	49	1 突 (2.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	に赤い黄緑	良	突帶
		2 不明 (3.55)	-	-	-	○○○○	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	横ナデ	良	底部	
16 号 竪 穴	51	1 突 (3.9)	-	-	-	○○○○	指オサエ・ナデ	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	口縁・突帶に削目
		2 突 (10.6)	-	-	-	○○○○	横ナデ・指オサエ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	に赤い黄緑	
		3 突 (20.2)	-	(21.4)	27	○○○○	ハケ目・ナデ・指オサエ	ハケ目・横ナデ・ナデ	横ナデ	良	削目突帶(布目痕)・外面上に黒斑	
		4 突 (10.0)	-	-	-	○○○○	ナデ	ハケ目・横ナデ	ハケ目・横ナデ	に赤い黄緑	良	貼付帯
		5 突 (9.9)	-	-	-	○○○○	ナデ・指オサエ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	に赤い黄緑	外面上に黒斑
17 号 竪 穴	53	1 突 (40.0)	138	(26.4)	-	○○○○	横ナデ・指オサエ・ナデ	横ナデ・ハケ目・ナデ	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	突帶・外面上に黒斑
		2 突 (35.8)	-	27.9	-	○○○○	指オサエ・ナデ	横ナデ・ハケ目・ナデ	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	口縁・突帶・外面上に黒斑
		3 突 (9.2)	(16.8)	-	-	○○○○	横ナデ・ハケ目・ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ目	横ナデ・ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	波状文
		4 突 (35)	(16.2)	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	良	波状文	
		5 突 (9.5)	(18.8)	-	-	○○○○	横ナデ・指オサエ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	外面上に黒斑
		6 突 (16.6)	-	-	21	○○○○	工具ナデ・ミガキ・ナデ	ハケ目・ナデ・指オサエ	ハケ目・ナデ・指オサエ	に赤い黄緑	良	外面上に黒斑
18 号 竪 穴	55	1 突 (31)	-	-	-	○○○○	横ナデ・ハケ目	横ナデ・指オサエ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	波状文
		2 突 (5.4)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	突帶・貼付帯	
		3 突 (4.6)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ・ミガキ・ハケ目	横ナデ・ミガキ・ハケ目	明赤褐色	良	削目突帶
		4 突 (3.2)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	に赤い黄緑	良	突帶
		5 跡 (1.8)	-	-	-	○○○○	ミガキ	ミガキ	ミガキ	良	外面上に丹塗り	
		6 高环 (6.9)	-	-	-	○○○○	シボリ痕・ケズリ	ミガキ	ミガキ	良	外面上に丹塗り・穿孔	
20 号 竪 穴	57	7 不明 (2.8)	-	(5.2)	○	○○○○	指オサエ・ナデ	工具ナデ・指オサエ	明褐色	良	黒斑	
		9 突 (42.6)	(15.8)	(29.0)	-	○○○○	指オサエ・ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	灰青褐色	良	スズ付着
		1 突 (5.9)	-	-	-	○○○○	ハケ目・指オサエ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	に赤い黄緑	良	波状文・浮文・突帶
		2 突 (3.6)	-	-	-	○○○○	指オサエ・横ナデ・ハケ目	横ナデ・ナデ	横ナデ	良	突帶	
		3 突 (4.0)	-	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	良	皮状文	
		4 突 (1.7)	(11.8)	-	-	○○○○	横ナデ	横ナデ	横ナデ	良	突帶	
		5 突 (3.9)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ・ハケ目	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		6 不明 (2.1)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	底部	
		7 小型 (3.6)	-	-	-	○○○○	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ	良	波状文	
		8 小型 (3.8)	-	-	-	○○○○	ヘラミガキ	ヘラケズリ痕・ヘラミガキ	ヘラケズリ痕・ヘラミガキ	に赤い	良	
21 号 竪 穴	59	9 小型 (3.1)	-	-	-	○○○○	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	外面上に丹塗り	
		10 小型 (12.0)	-	(3.2)	-	○○○○	ナデ・指オサエ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	に赤い黄緑	良	貼付帯・浮文
		11 小型 (17.4)	-	-	-	○○○○	ナデ・指オサエ	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ハケ目	に赤い黄緑	良	黒斑あり
		12 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良		
22 号 竪 穴	60	13 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		14 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
23 号 竪 穴	61	15 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		16 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
24 号 竪 穴	62	17 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		18 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
25 号 竪 穴	63	19 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		20 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
26 号 竪 穴	64	21 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		22 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
27 号 竪 穴	65	23 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		24 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
28 号 竪 穴	66	25 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		26 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
29 号 竪 穴	67	27 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		28 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
30 号 竪 穴	68	29 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		31 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
32 号 竪 穴	69	32 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		33 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
34 号 竪 穴	70	34 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		35 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
36 号 竪 穴	71	36 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		37 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
38 号 竪 穴	72	38 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		39 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
39 号 竪 穴	73	40 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		41 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
40 号 竪 穴	74	42 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		43 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
41 号 竪 穴	75	44 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		45 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
42 号 竪 穴	76	46 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		47 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
43 号 竪 穴	77	48 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		49 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
44 号 竪 穴	78	50 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	
		51 小型 (1.5)	-	-	-	○○○○	ナデ	横ナデ	横ナデ	良	外面上に丹塗り	

第5表 中道遺跡出土遺物観察表（弥生時代石器）

出土遺構	國版番号	No.	器種	法量				石材	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1号竪穴	20	10	砥石	23.8	6.7	6.7	1442	安山岩	
2号竪穴	22	15	敲石	6.05	5.0	4.3	186.1	安山岩	
3号竪穴	24	16	敲石	5.35	4.70	2.6	97.4	礫岩	
		1	磨石	4.75	4.35	1.85	59.15	流紋岩	
		2	石皿	32.5	28.1	15.1	1990.0	安山岩	
		8	磨製石鑼	(28)	(15)	(0.25)	163	粘板岩	
4号竪穴	27	9	磨製石鑼	(2.55)	(1.95)	(0.35)	27.2	綠色片岩	
		10	磨製石鑼	2.85	1.45	0.35	15.5	粘板岩	
		11	石鑼	4.0	2.0	0.6	5.0	蛇紋岩	未成品
		1	磨製石鑼	(2.6)	(1.2)	(0.35)	1.09	粘板岩	
5号竪穴	30	2	石鑼	5.9	2.05	0.35	7.02	粘板岩	未成品
		3	石鑼	3.95	2.15	0.45	4.98	粘板岩	未成品
		4	敲石	13.3	8.4	2.8	379.23	流紋岩	
		5	砥石	10.35	3.15	2.2	129.5	安山岩	
9号竪穴	36	4	石皿	25.6	24.6	8.2	8700.0	花崗岩	
		8	磨石	7.15	4.4	3.05	140.3	花崗岩	被熱痕・敲打痕
10号竪穴	38	9	石皿	35.3	25.0	8.8	10100.0	安山岩	
		1	砥石	11.5	9.8	4.6	694.0	片岩	一部敲打痕
12号竪穴	43	2	磨石	5.6	4.95	1.7	78.84	流紋岩	
		3	磨石	9.9	10.4	5.8	894.0	閃綠岩	一部敲打痕
		4	石鑼	(4.7)	1.9	0.55	9.32	片岩	未成品
		3	磨製石鑼	3.65	2.95	0.25	3.89	粘板岩	
		4	磨製石鑼	(3.0)	(2.2)	(0.35)	2.52	粘板岩	
14号竪穴	47	5	石鑼	4.1	1.55	0.45	3.34	粘板岩	未成品
		6	石鑼	(4.75)	2.35	0.55	8.31	粘板岩	未成品
		7	石鑼	5.15	1.85	0.55	7.26	粘板岩	未成品
		8	石鑼	(6.15)	(2.55)	(0.45)	10.32	片岩	未成品
		9	石鑼	(4.25)	1.55	0.35	3.79	綠色片岩	未成品
		10	石鑼	(5.95)	1.95	0.35	6.76	粘板岩	未成品
		11	石鑼	5.95	1.85	0.5	6.37	粘板岩	未成品
		12	磨石	11.8	5.9	4.8	476.0	片岩	
		13	磨石	5.65	4.6	1.4	63.4	片岩	
		14	敲石	4.7	3.75	1.9	40.6	安山岩	
18号竪穴	49	3	磨石	8.3	7.3	6.3	473.14	流紋岩	
		6	敲石	6.3	4.2	2.6	96.6	花崗岩	
19号竪穴	51	7	台石	16.5	16.9	12.3	4300.0	安山岩	一部敲打痕
		8	石皿	33.3	23.9	11.8	12100.0	安山岩	
20号竪穴	53	7	石鑼	(5.6)	2.65	0.65	10.65	粘板岩	未成品
溝状遺構	60	1	敲石	9.7	5.3	2.75	184.2	斑楓岩	
一括採集	62	12	磨石	12.5	9.0	5.4	952.0	片岩	敲打痕
		13	扁平片刃石斧	(10.9)	(3.4)	(1.4)	1018.7	安山岩	

第6表 中道遺跡出土遺物観察表（鉄器）

出土遺構	國版番号	No.	器種	法量			備考	出土遺構	國版番号	No.	器種	法量			備考
				長さ	幅	厚さ						長さ	幅	厚さ	
2号竪穴	22	17	刀子？	(4.9)	(2.5)	(0.2)	孔2箇所	9号竪穴	36	5	鐵鏟	(3.5)	(1.3)	(0.4)	茎部
		18	鐵鏟？	(3.5)	(1.9)	(0.2)	本質？	10号竪穴	38	10	手鍬？	(5.5)	(2.2)	(0.2)	欠損
3号竪穴	24	3	鏟	10.3	2.5	0.6		11号竪穴	40	6	鐵鏟	(5.2)	(1.6)	(0.2)	茎部
		4	鐵鏟	(5.2)	2.4	0.3			5	手鍬？	4.5	2.3	0.9		
		5	鐵鏟	(5.7)	(2.0)	(0.3)	楊扶三角		6	鐵鏟	7.8	1.7	0.8	柳葉形	
		6	鐵鏟？	2.6	2.4	0.4	刃先	12号竪穴	43	7	鐵鏟？	(2.4)	(1.0)	0.3	茎部
4号竪穴	27	12	鐵鏟	(3.4)	(0.7)	(0.5)	茎部		8	鐵鏟	(4.0)	(2.0)	(0.2)	木葉形	
6号竪穴	32	3	鐵鏟	(5.6)	(1.9)	(0.2)	木葉形		9	鐵鏟？	(4.1)	(2.0)	(0.2)	木質付	

第7表 中道遺跡出土遺物観察表（土器片加工品）

出土遺構	63図No	法量			備考	出土遺構	63図No	法量			備考
		現存長	現存幅	厚さ				現存長	現存幅	厚さ	
2号竪穴	1	40.0	21.5	6.0		11号竪穴	10	44.0	31.0	8.5	
3号竪穴	2	77.0	51.0	14.5	一部欠損		11	56.5	34.5	7.0	
6号竪穴	3	63.5	41.5	8.5		12	54.5	40.5	6.5		
9号竪穴	4	63.0	31.5	6.5		13	53.0	47.0	7.5		
	5	47.5	41.0	11.0	一部欠損	14	48.0	36.5	11.5		
	6	49.0	39.0	10.0		15	45.5	23.5	8.0		
10号竪穴	7	48.0	29.0	9.5		16	39.5	22.5	9.5	一部欠損	
	8	45.5	31.5	10.5		17	53.0	26.5	7.0		
11号竪穴	9	47.5	40.5	9.5							

第Ⅲ章　まとめ

縄文時代について

縄文時代の遺構として住居跡とみられる堅穴遺構4基が確認され、台地上を生活基盤として営まれた集落と思われる。遺物は主に堅穴遺構からの出土であるが、弥生時代の遺構からも出土しているため、元々は包含層等の存在も想定される。多くの出土土器が後期後半の時期であることから、比較的短期間の遺構群とみられ、大野川流域ではこの頃より遺跡数が増加することが知られている。同じ大野町内の同時期の遺跡として、駒方遺跡、光昌寺遺跡、夏足原遺跡など数多くあり、特に岡遺跡や川南原遺跡群では集落として堅穴遺構群が検出されており、すべて台地上という共通した環境の下で営まれたと考えられる。

堅穴遺構の平面形態について、楕円形状の8号・15号堅穴、略方形気味の16号堅穴、不整形状を呈する17号堅穴など様々で、差異の背景については不明である。岡遺跡や松木遺跡では方形、川南原遺跡群（杉園遺跡）では円形のものが検出され、内河野遺跡では両方の形態の遺構が検出されており、地域差より時期差や機能差などが考えられているが、いまのところ類例も少なく判断し難いため、資料の増加を待ちたい。

遺物について、土器は外表面が研磨された深鉢ではほぼ占められており、口縁内面に一条の沈線があるものと無文のもの、さらにそれぞれ波状口縁と水平口縁のものがあり、底部は上げ底状となるものが一般的で後期後半の三万田式に相当する形式である。先行する西平式土器もわずかに含むが、西平式の特徴的な文様である磨消繩文が省略化し、あるいは消滅の進んだ時期の形式として位置づけられる土器が数多く確認されている。

石器として主体となるのは多量に出土した扁平打製石斧であり、この遺物も後期後半以降より出土量が増加する遺物として知られている。多くが安山岩製で、形態的にも共通している。土掘り具等としての用途が想定され、農耕の存在が示唆される遺物とも考えられている。

また、15号堅穴遺構より出土した土偶脚部について、流れ込み状態での出土ではあるが三万田式土器と並行するものと考えられる。駒方遺跡の頭部、宮地前遺跡の頭部および脚部など近隣の遺跡で数例が出土しており、その新たな資料として加えられることができる。

弥生時代について

弥生時代の遺構は堅穴遺構17基のうち、多くは後期後半から終末にかけてのもので、すべての調査区で確認した。唯一の中期の14号堅穴遺構について、調査区外の範囲が多く形態については判断し難いが、同時期の堅穴遺構の調査例として、近中遺跡での隅丸方形や岡遺跡で円形のものなどが確認されている。大野川中流域での弥生時代集落は中期より次第に増加して後期の大規模化につながる様相であるため、14号堅穴も後期の遺構群へと続く初期にあたる遺構とみられる。

後期の堅穴遺構として、調査区IからIIIにかけて17基確認しており、そのうち壁面未検出の13号・18号を除きすべて方形を基本とするプランである。調査区Iでは北側は遺構が少ない傾向であったものの、150m程北側に位置する調査区IIでも堅穴遺構を検出しているため、台地上に広く点在していると考えられる。時期はこれまでの先行研究による土器の編年に当てはめて、後期後葉から終末にかけてのものが主体である。12号堅穴遺構の出土土器の一部に古墳時代初頭とみられるものを最後に遺構や遺物は見られなくなり、大野川流域の典型的な集落遺跡を示しているといえる。

また、堅穴遺構の主軸方向について、ほぼ方位に沿って構築された一群のはか、4号・6号堅穴がやや異なっており、出土遺物から時期的にやや古相の傾向があると考えられる。このことは掘立柱建物遺構にも当てはまり、大きく方向が異なる3号掘立柱建物よりやや古相の後期中頃の遺物が出土していることから、時期に

よる変化が伺われる。

地形的には若干起伏はあるものの、中道から南へ萩田尾、広戸地区へと続く広大な台地であることから、調査区以外も集落として広がる可能性がある。これを裏付けるかのように、周辺の至る所から遺物の出土がこれまで伝えられており、規模の大きな遺跡であった可能性が想定される。大野川中流域の遺跡群は、土器の相違から上流側の大野原地域と下流側の白鹿山周辺地域に分けられているが、その中間地域に位置する中道遺跡は両方の特徴の遺物が出土しており、両方の文化圏の影響下で発展した集落であったと考えられる。

おわりに

昭和40年代以降、大野町全域で大規模な圃場整備工事に伴い、多くの遺跡において発掘調査が行われているが、盛土保存などの措置により事前の確認調査のみの箇所も多い。中道遺跡での圃場整備はそれ以前の年代のため未調査であったとみられ、同様な遺跡も数多くあると考えられる。圃場整備は遺跡保存上深刻な影響を与えているのも事実ではあるが、今回の調査で明らかであったように、工事実施後でも必ずしも遺跡が破壊されているとは限らない事例を示すことができた。先入観で対応されることのないよう今後の開発に対する注意の必要性をあらためて痛感するとともに、盛土保存措置の遺跡など正確な情報として把握することも必要である。

参考文献

- 清水宗昭ほか『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会
坂本嘉弘ほか『大野原の先史遺跡』1984 大分県教育委員会
後藤一重編『野津川流域の遺跡VI 内河野遺跡』1985 野津町教育委員会
坂本嘉弘編『高添台地の遺跡』1989 千歳村教育委員会
綿貫俊一編『川南原遺跡群』1991 大分県教育委員会
栗田勝弘編『鹿道原遺跡』2001 千歳村教育委員会
豊田徹士編『高添遺跡』2006 豊後大野市教育委員会
原田昭一ほか『一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）』2007
大分県教育庁埋蔵文化財センター



中道遺跡遠景(南より)



中道遺跡遠景(東より)



中道遺跡遠景(南より)



調査区Ⅰ全景（北側より）



調査区Ⅰ全景（北東側より）



調査区Ⅰ全景（南東側より）



調査区Ⅱ全景（南側より）



1・2号竪穴構造（南側より）

写真図版2



1号竪穴遺構（西側より）



2号竪穴遺構（東側より）



3号竪穴遺構（西側より）



3号竪穴遺構出土遺物



3号竪穴遺構出土遺物



4号竪穴遺構（南側より）



4号竪穴遺構（東側より）



5号竪穴遺構（東側より）



5号竖穴遺構（南側より）



6号竖穴遺構（西側より）



7号竖穴遺構（東側より）



8号竖穴遺構（東側より）



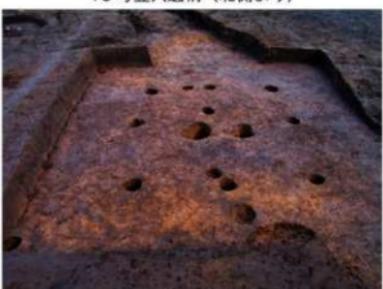
9号竖穴遺構（西側より）



10号竖穴遺構（北側より）



11号竖穴遺構（西側より）



12号竖穴遺構（南側より）

写真図版4



12号竪穴遺構（東側より）



13号竪穴遺構（南側より）



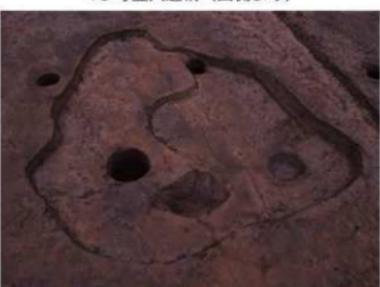
14号竪穴遺構（南側より）



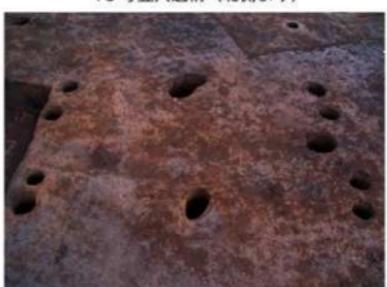
15号竪穴遺構（西側より）



16号竪穴遺構（北側より）



17号竪穴遺構（西側より）



18号竪穴遺構（南側より）



19号竪穴遺構（西側より）



20号竪穴遺構（西側より）



20号竪穴遺構出土遺物



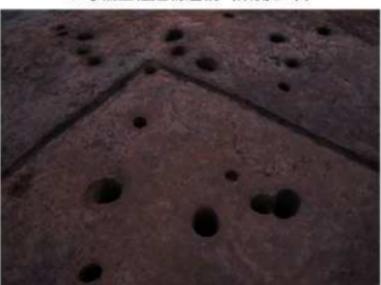
21号竪穴遺構（西側より）



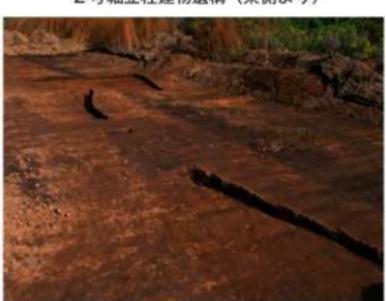
1号堀立柱建物遺構（東側より）



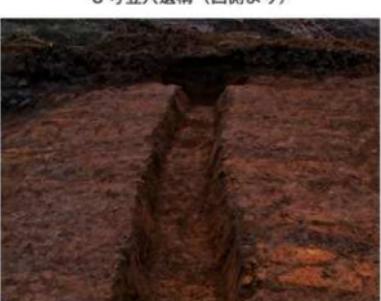
2号堀立柱建物遺構（東側より）



3号竪穴遺構（西側より）



溝状遺構（南側より）



溝状遺構土層

写真図版 6



縄文時代土器



縄文時代石器

写真図版 8

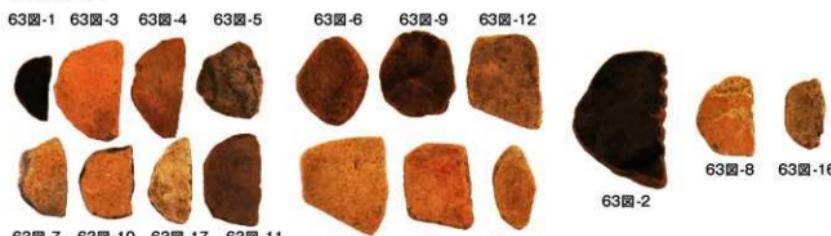


弥生時代土器



弥生時代土器

写真図版 10



弥生時代土製品



弥生時代石器



弥生時代石器



弥生時代鉄器

報告書抄録

フリガナ	ナカミチイセキ							
書名	中道遺跡							
副書名	豊後大野市内遺跡調査報告書							
シリーズ名	大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第2集							
編集者名	諸岡 郁							
編集機関	豊後大野市教育委員会							
所在地	〒879-7131 大分県豊後大野市三重町市場 1200番地							
発行年月日	平成25年3月29日							
フリガナ 所取遺跡名	フリガナ所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ナカミチ 中道遺跡	ブンゴオキノシオオノマチウシロダ 豊後大野市大野町後田 字義丁場・下ノ久保	市町村	遺跡番号			2008.10.07 -2009.02.28	3367m ²	農業基盤整備
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中道遺跡	散布地・集落跡	縄文・弥生	竪穴・溝状遺構 堀立柱建物	土器・石器 土製品				
要約	縄文時代後期、弥生時代中期・後期の拠点的な集落遺跡と考えられる							

大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

中道遺跡

豊後大野市内遺跡調査報告書

発行日 2013年3月29日発行

編集・発行 豊後大野市教育委員会

〒879-7131 豊後大野市三重町市場1200番地

印 刷 株式会社 双林社